

田辺市のひきこもり支援

(窓口開設 16 年目の報告)

平成 28 年4月～平成 29 年3月

和歌山県田辺市

目 次

I . 田辺市におけるひきこもり支援	
1. 田辺市ひきこもり支援について	 1
2. 田辺市ひきこもり相談窓口 紹介ビラ	 4
II . 田辺市ひきこもり検討委員感想	 5
III . 平成 28 年度 支援の実際	
1. 相談実績	 13
2. 支援の報告	
(1) 家族会(ほっこり会)	 19
(2) 青年自助会実績	
(3) 啓発活動・視察・問い合わせ	 20
(4) ひきこもり支援啓発講演会	 21
(5) 田辺市ひきこもり検討委員会 議題／活動	 35
(6) 中学校での取組について	 36
(7) ひきこもり検討委員会 講義	 60
IV . 参考資料	
1. ひきこもり家族の会 ほっこり会 紹介ビラ	 67
2. NPO法人 ハートツリー 紹介ビラ	 68
3. NPO法人 かたつむりの会 紹介ビラ	 73
4. NPO法人 共生舎 紹介ビラ	 74
5. 田辺市ひきこもり検討委員会 設置要綱／委員構成	 75

I. 田辺市におけるひきこもり支援

＝現状と課題から、今後の支援体制を考える＝

田辺市では、全国に先駆けて平成 13 年にひきこもりの相談窓口を開設するとともに、保健、医療、福祉、教育、雇用などの関係者からなる「田辺市ひきこもり検討委員会」を組織し相互に連携を図り、協力しながら課題の解決に取り組み、16 年目を迎えました。

また、市民の皆さんの活動も大変活発に行っていただいております。平成 28 年には、NPO 法人ハートツリーが NPO 法人に認証されてから 10 周年を迎えられました。NPO 法人設立より早い時期から、ひきこもり青年の社会参加支援活動を開始され、積極的な活動により田辺市の取り組みを支えていただいております。

田辺市ひきこもり相談窓口では、「学校に行けない・行かない」わが子に悩む家族からの相談を受けるケースもあります。中学校や高校に在籍している間は、先生へ相談したり支援を受ける事ができますが、卒業や中退で学校を離れてしまうと、社会とのつながりがなくなってしまうです。本人・家族が孤立してしまわないよう在学中から学校との連携により切れ目のない支援を継続していくことが大切と考えます。また、所属している間に関わりを持つためには相談機関の周知が大切と考え、中学 3 年生、高校 3 年生にストレス度チェックと相談機関を紹介したチラシを配布しました。今は自分とは関係ないように思っても、相談する所を知っていることで、この先、本人や友達が悩んだ時、利用しやすくなればと考えています。

平成 28 年9月に公表された内閣府の「若者の生活に関する調査」では、15 歳～39 歳の若者のうち学校や仕事に行かず、半年以上自宅に閉じこもっている「ひきこもり」の人は推計 54 万 1000 人で、平成 22 年の調査時の 69 万 6000 人から約 15 万人減少したと発表されました。若者サポートステーションの活動も 10 年たち、39 歳までの方には効果が上がっているためと考えられます。しかし、この調査は、40 歳以上の方については調べられていません。

今後、40 歳以上のひきこもりの方に対する支援も課題となっています。

平成 25 年に生活困窮者自立支援法は公布され、平成 27 年度に生活相談センターが開設されました。父・母が高齢となり生活に困り、生活相談センターに相談に来てはじめて家族にひきこもっている人がいるとわかることもあります。

困っていても親戚や近所の人にも明かさず、家族で抱え込んでいる事がよくあるので、このような部署と連携し、必要としている人に支援が届くように、ひきこもり検討委員会としても、今後このような課題に取り組んでいきたいです。

ひきこもり支援の経過

平成 9 年 6 月	議員一般質問
平成 13 年 1 月	田辺市ひきこもり検討委員会を設置
平成 13 年 3 月	ひきこもり相談窓口の開設(保健師 1 名専任)
平成 13 年 4 月	田辺市ひきこもり検討小委員会の設置
平成 14 年 5 月	HAPPYが、ハートツリーハウス開所 社会的ひきこもり青年の居場所活動開始(国・県より補助金)
平成 14 年 6 月	田辺市ひきこもり家族会の設置
平成 16 年 1 月	田辺市ひきこもり青年自助グループの育成(月2回)
平成 16 年 3 月	ひきこもり相談窓口担当者1名増員 2名(保健師・相談員)体制に
平成 16 年 4 月	田辺市ひきこもり家族会が自主運営
平成 17 年 4 月	ひきこもり青年自助会(知音CHI-IN)が開始(週 1 回)
	ハートツリーハウスが、「ひきこもり者社会参加支援センター」 運営事業補助金を受けて運営(県・市の補助金)
平成 18 年 10 月	ハートツリーハウスがNPO法人認可 ハートツリーに名称変更
平成 20 年 8 月	NPO法人ハートツリーが南紀若者サポートステーション開設
平成 26 年 4 月	南紀若者サポートステーションが若者サポートステーション With You 南紀に名称変更 (県より若者総合相談窓口 With You 事業が委託されたため)
平成 27 年 4 月	ひきこもり者社会参加支援センター ハートツリーが、 ひなたの森に名称変更

※ ひきこもり青年自助会(知音CHI-IN)は平成 21 年度より休会中。
参加者がいる場合、再開。

田辺市ひきこもり支援ネットワーク

- ◆ 官民を超えたひきこもり支援対策の構築
- ◆ 事業報告・計画への意見
- ◆ 視察・講演会等への協力
- ◆ 対応が困難な事例の相談
- ◆ 委員の学習会

ひきこもり検討委員会 (年2回)

市担当課(商工・福祉)
紀南児童相談所
田辺市教育研究所
田辺市養護教諭研究会
和歌山県教育センター
学びの丘
高校
紀南こころの医療センター

ほっこり会(家族会)
知音 CHI-IN(自助会)
精神科医師
学識経験者
NPO法人 かたつむりの会
NPO法人 共生舎
(公社)白浜・田辺青年会議所

ひきこもり検討小委員会 (月1回)

市担当課(保健・福祉・教育)
田辺保健所

やおき福祉会
ふたば福祉会
田辺市社会福祉協議会
NPO法人 ハートツリー
(ひきこもり者社会参加支援センター)
ひなたの森
若者サポートステーション
With You 南紀
学識経験者
臨床心理士会

※ 公的機関 は民間機関

ひきこもり相 談窓口

ご家族・ご本人さんだけで、悩んでいませんか？



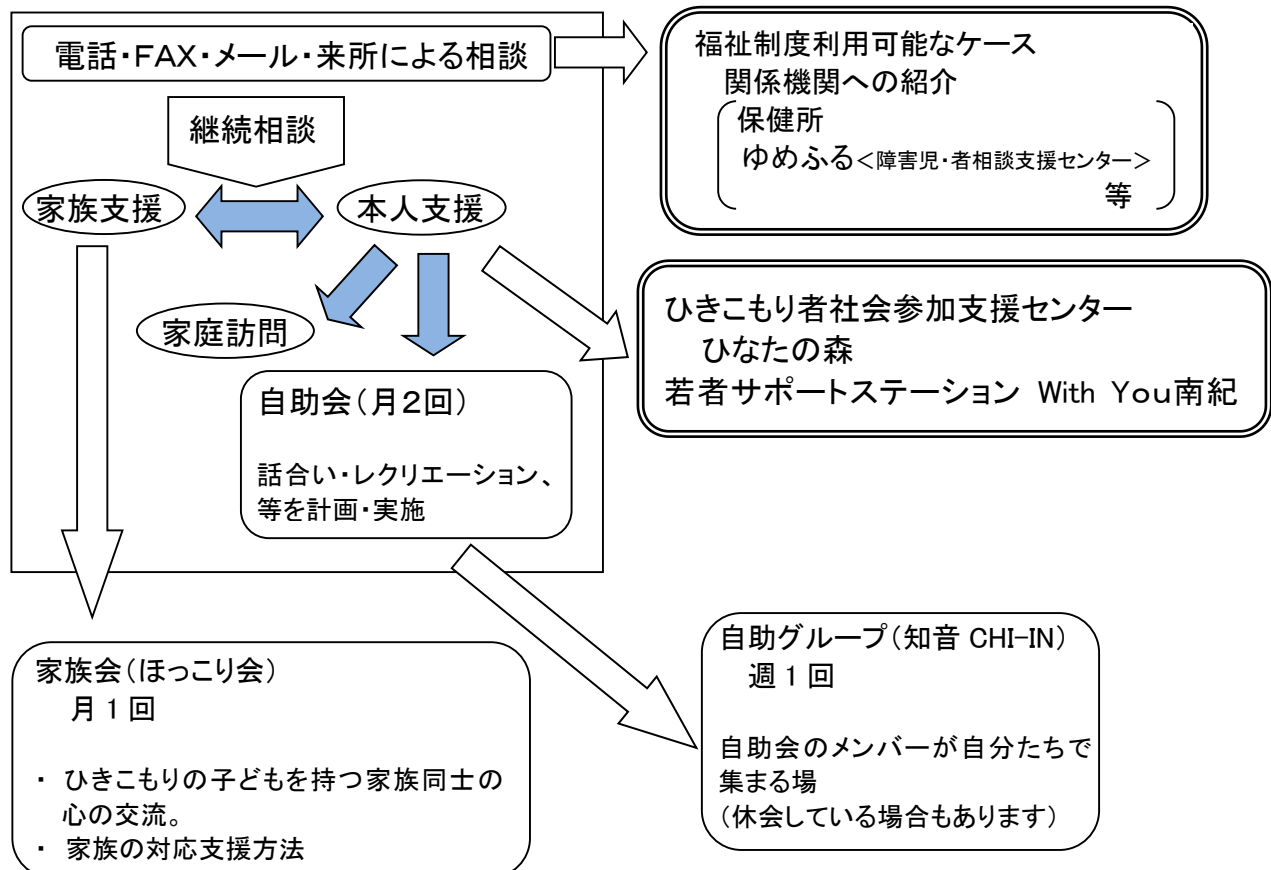
不登校のまま卒業・・・
中退後自宅中心の生活をしている・・・
進学、あるいは、就職したけれど途中で社会参加をしていない・・・

まずは、電話・メールをいただけませんか？

相談を定期的に続けていくうちに徐々に元気を取り戻していきます。
自助会、家族会（ほっこり会）があります。
会への参加は、相談窓口担当者がお会いした後、紹介させていただきます。



相談の流れ



問い合わせ先

田辺市健康増進課

TEL : 0739-26-4901(平日8:30~17:15)

TEL・Fax : 0739-26-4933(ひきこもり相談窓口専用)

E-Mail : shc@city.tanabe.lg.jp

Hp : <http://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/hikikomori/index.html>

※ 保健所にも「ひきこもり」相談窓口があります。

田辺保健所 TEL 0739-22-1200(代表) (平日9:00~17:45)



II. 田辺市ひきこもり検討委員感想

『ひきこもり検討委員会を振り返って』

田辺市ひきこもり検討委員会 委員長

社会福祉法人やおき福祉会 西脇 潤

早いもので、平成28年度も残りわずかとなりました。今年度も検討委員会の委員長をさせてもらったのですが、大して役に立てず申し訳なかったなと感じています。ひきこもり検討委員としてのこの一年を振り返ってみて感じたことを少しまとめてみたいと思います。

1. 田辺市とその周辺のひきこもり対策と社会資源に関して

「社会的ひきこもり」という言葉が社会問題として取り上げられはじめた十数年前に比べ、沢山のサービスや社会資源がこの地域には整備されたなと思います。特にひきこもりの現状から脱却し経済的な自立を目指す若者に対しては、相談から就労訓練、就労支援といった支援の流れが整備され「若者を支える仕組み」が地域に根付いてきたように感じます。

2. 今なお解消のめどが立たない課題について

検討委員会でもよく耳にするところで、40歳を超えたひきこもり状態の成年への支援が現行の制度では難しいという問題があります。現時点で国が定める「社会的ひきこもり」への支援は40歳までの青年を対象としており、田辺市でも相当数の方が40歳を超えていたり、まもなく40歳を迎えようとしている状態です。誰でもそうだと思いますが、若ければ若いほど新しいことにチャレンジしたり、自立を目指し生活に変化をつけやすいものです。これが40歳を境に支援の輪から外れてしまうと、ただでさえ変化が乏しかった生活がより膠着化してまもなくなくなります。結果としてどんどんと高齢化がすすみ同居していた肉親等の高齢化により生活の継続が困難になってしまいます。そうならないようにどういった対策が必要かなどを継続して考えていければと思っています。

また、学校在籍時に不登校などで「ひきこもり予備軍」となっている児童の情報が卒業と同時に教育機関の中だけに埋没してしまい、福祉や行政といった部分への引継ぎがおこなわれないという問題についても委員会の中で議論がありました。個人情報保護などの観点などから言えば、軽率に扱える情報ではありませんが、状態が悪化してから福祉的な支援を受けるケースが多く、早い時期で支援を開始できればもっと有効な支援が出来るのと思います。越えなければいけない問題は多々ありますが、地域の若者を多角的な視点で見守り支援するという観点から行政・教育・福祉の分野が上手に情報を共有できるようになればなと思いました。

3. 子供や青年が暮らしやすい地域であるために

検討委員会では、「ひきこもり」を検討する中で、この地域の子供たちや青年の実情といったものについてもいろいろと議論をすることがあります。その中で気になったのが、子供の

貧困問題です。全国的にも「子ども食堂」や「学習支援」といった取り組みにより貧困世帯の子供たちを支援する動きが注目されており、子供の貧困が社会問題となっていることはよく知られた事実だと思います。では、田辺市やその周辺市町村での実情はというと、正確な統計は出ていませんが、相当数の児童が学費や食費といった最低限度の支出が賄えず学校に行けていなかったり、経済的な理由からいじめの対象となって不登校になるケースもあるということです。子供の貧困の問題の多くはその親世代が十分な収入を得られていないことから生じます。（育児放棄や虐待も一部ありますが）

経済的に豊かであればすべてが丸く収まるわけではありませんが、結婚や育児をしていく上で、親御さんが安定した職に就けるということはとても重要なことです。貧困にあえぎ豊かな幼少期を送れずに「不登校やひきこもり」になる児童を減らしていくためにも、若者への就労支援がもっと充実し、多感な時期を周囲の支援を受けながらも社会人として踏み出せる地域になって行けばいいのになと思います。

4. まとめとして

ひきこもりの問題を考えることは「ひきこもっている若者にどう対処するか」を考えることではなく、この田辺西牟婁という地域がいかに関者にとって、『学びやすく』『働きやすく』『子育てしやすい』地域であるかどうかを考えることなんだなと思っています。自分自身がこの地で子育てをしている身であり、今後も地域の一員であり当事者の一員であることを自覚しながら、少しでもお役に立てることが出来ればと思いました。

『ひきこもり検討委員として』

田辺市ひきこもり検討委員会 副委員長

臨床心理士会 棚橋育子

ひきこもり検討委員を務めて 8 年になります。28 年度は副委員長を拝命し、ひきこもりの啓発や予防について委員の皆様と会議を重ねてきました。

「自分の居場所がある」「自分は必要とされている」と感じたとき、私たちは生きる希望を持つことができます。何らかの理由でひきこもることを選択した人々が外に出るためには、「自分はこの世の中で生きていける」という自信を持つことが大切です。傷ついている人は、これ以上傷つきたくない、失敗して自信を失いたくないという思いから、非常に慎重になっています。彼らに必要なのは、失敗しても受け入れてもらえるという体験をすることと、成功体験を重ねて自信を伸ばしていくことだと思います。

「失敗しなくなる」ではなく「失敗しても大丈夫だと思う」。ひきこもり支援を考えるとき、家からいきなり社会に出るのではなく、そのような体験ができるリハビリ施設のような、スモールステップを重ねながら自信をつけていける場所がもっと多くあればいいなという思いを私自身ずっと持っています。そのために我々は、地域として、また一人の支援者として何ができるかを常に考えていかなければならないと感じています。

「ひきこもる」ことは、自分をまもるため、生きていくために大切なプロセスのひとつであるともいえます。いったん立ち止まって心と身体を休め、もう一度やってみよう、頑張ってみようと思ったときに、「生きるって、人とかがかわるって、楽しいこともあるんだな」と感じられるような場所を作っていくこと、地域にしていけることをこれからも目標にしていきたいと思っています。

『ひきこもり考』

学識経験者 布袋 太三

ずっと昔、知的レベルが高く、資産もあって、しかしブラブラと日々をやり過ごしている一群の人々のことを高等遊民などと呼んでいた。あくせくと働かざるをえない庶民は彼らを揶揄ともやっかみとも非難ともつかない目で見ていた。彼らは社会の秩序や要請の外に身を置き自由に只々「遊民」としてひきこもったり働くことを拒否していたわけで、いわば確信犯的であった。

そうした連中と、われわれの眼前にいる現代のひきこもり青年たちとはすべてにわたって真逆である。現代の彼らは多様な様相を呈しているので一概には言えないにしても、概ねすこぶる真面目で善良な青年たちである。できれば大抵の社会人のように普通に働き家族を持ちということを大事にしたいと思っている。ただ、いろいろなことがあって思うに任せなかったのである。

彼らは某かの躓きが心身に与えたダメージからなかなか回復せず、何というか「普通」の社会人になれていない自らをやや怨嗟の目で見遣るかのような日々を一見ほぼ無為に重ねてきている。彼らの多くは世の中の構造的矛盾などにはほとんど無頓着であり、たとえば、非人間的にスピードと効率を求める企業の働かせ方にアンチを唱えるわけでもないし、自身の身の丈にあった新たな価値の体系に目覚めるわけでもない。なんとか「普通」の群れに紛れるほどになれたらいいのである。せつかく何年もひきこもっていたんだから、それに見合う落とし前をつける何かを獲得すること抜きにひきこもりからは脱出しないというわけでもない。要するにひとにぎりのひきこもり者以外はきあめて普通に真面目な人生観をもつどこにでもいる青年たちなのである。

そこで、ひきこもり者の「ゴール」は、大雑把にいうとそれぞれがそれなりの「生きがい」をもって日々を過ごす展望をもつことができるようになったら、まあそれでいいのだと思う。したがって、ひきこもり支援の有り様にしても、平たくいうとそうした青年への寄り添いと相談活動を軸とすることになる。あまりに気負って過去を帳消しにする「価値高い再生」を期すというのは尋常でないジャンプ力が必要なのでやめた方がいい。次のステージはクライアントにとっては意外と身近な地続きの場所にあることを見逃さない支援が大事なように思う。いずれにしても一人一人に見合うメニューは絶えず更新し、時々の諸事情や揺れる感性も包みこんでおきたいし、やはり難しいことは難しいが……。

ところで、先日、ある講演会に参加した。講師は若いカウンセラーで、正直にいうと端からどうも肌に合わない雰囲気と物言いと理論構成と展開で、質問するとなるとちやぶ台をひっくり返す風になってしまうので、辛抱して静かに退散させてもらった。

肌に合わなかった諸々を少しだけ素描したい。

まず、講師の物言いの端々に対人援助を生業とする人に最も求められる慎ましやかな謙虚さがほとんど感じられなかったことである。このことは決定的なことで、わざとラフさを気取ってみる手法の人もあるが、それでも謙虚さは滲み出てくるものだ。それがなかったと思うのは私だけだったろうか。

他人の人生にほんのちよつとでも関わることの重さに思いを致すなら、やはり誰もが立ち竦み、これでいいのかと支援者自身謙虚にならざるをえないものだが、彼はどうもそうでないように思えた。

もう一つは、基本的なことだが、「講演先の地域のひきこもり支援事情についてまったく把握していない」と思われる点と、当日の聴衆のほとんどはひきこもりについては無知な人たちだと思い込んでしまっていることである。だから「私が基礎(?)を教えてあげよう」風になっていて、しかも聴衆巻き込み型講演をめざしたのか、ナンセンス質問を発して空回りしてしまっても意に介さないときているから、私はもう鼻白むよりほかなかったのである。また、

冒頭自己紹介の部分でもうけると思ったのか「出身地区が言えない理由を少年犯罪多発地域だから云々」と語ってみせたり、アシスタントの自称「当事者」との掛け合いも十分な打合わせができているようにも思えないし、一言で言うと粗雑なのである。どうやら彼は即興が好きで場の空気をあまり読まないし読むことが得意でないという特徴をもつカウンセラーなのかもしれない。

中身についても少し触れておくと、「アパシー」について辞典をつかった説明を導入としたのは何を意図していたのか。不明なのだ。その後の「スチューデントアパシー」から「ひきこもりの定義」を説明するくだりも辞典とガイドラインをなぞるだけで臨床から得た独自の知見を提示するわけでないのはなぜか。大体スチューデントアパシーというのは「近年」の学生状況から見られる特徴などではない。何十年か前の話なのだ。だから、現代の学生たちの喫緊の臨床の知を介在させないで論じることがほとんど今日的意味をなさない。また、引用した「新ガイドライン」も支援者たちの間では必ずしも重宝する代物と思われてないことは大方の知るところであって、言葉面だけでなく自らの支援現場からとらえかえしたり、全国の支援者たちの声を聞けていればそれなりの保留付きで論じることになるはずだが、そうでないのはなぜか。本当に「支援者マップ」なるものをそれぞれの内実とともに調査し、作ろうとしているのか。現にわれわれのところにそうした問い合わせがあったようには私はまったく聞いていない。

因に新ガイドラインの依拠する数値はわずか5ヶ所の保健所の分析結果に過ぎない。エビデンスとしては不十分きわまりない。このことは講師もすでに気づいておられるはずである。気鋭の実践者としてこの新ガイドラインの批判的捉え返しと新たな課題を提示するぐらいは試みてほしい。

いろいろダメ出しをしたが、それにしても30代という若さでカウンセリングルームを主宰する「才」には感心するほかない。私は自身のその年の頃に思いを馳せると恥じ多き、かつ混乱に充ちた日々のみが思い出される。われながら情けない限りで、他人に教訓を垂れるなど考えられもしなかった。

今後は、さらに活躍の場を広げられることを祈念して稿を閉じたい。

『田辺市のひきこもり施策ともに』

ひきこもり者社会参加支援センターひなたの森 松下 泰子

私は、昨年の7月からセンター長の富士に代わって田辺市ひきこもり検討委員会に参加させてもらうようになりました。

ひきこもり相談窓口が設置されて16年目になりますが、NPO法人ハートツリーも田辺市とともに歩んできたと言えます。

酒井前理事長が中心になって多くの方々の協力、支援を得て市や県にひきこもり問題に取り組んでもらえるよう活動を始めたことが遠い昔のようであり、またついこの間のようにも思い起こされます。全国に先駆けて公的機関がこのように積極的に取り組んでいただけていることは、私たちの誇りであり、感謝に堪えません。

当法人も昨年11月に法人設立10年記念事業を終えました。法人化に至るまでに5年程かかっている訳ですが、生きづらさを抱える若者たちが集う居場所づくりが始まり、彼女らのニーズも多様化し、そのニーズに応えるために ひたすら走り続けてきたような気がします。

そして、ここを巣立って行った若者が、色々な場で一生懸命働いている姿を見るのが何よりの喜びです。また、10数年間ひきこもっていた青年が、家から出て当法人の運営する焼菓子工房で働くようになり、再び通信制高校に通い始めている姿には、感動さえ覚えます。

一方、事業が広がり様々なケースの若者たちに関わるようになるとその対応の難しさに葛藤の日々が続きます。専門的な知識も経験も必要になります。スタッフの研修や精神科医や臨床心理等の先生方の助言を得ながら、より良い対応に苦心しているところです。不登校からひきこもりと長期化するケースでは、障害とのボーダーの場合が多く、適切な対応が本当に出来ているかどうか無力感に苛まれる時もあります。

ひきこもり相談窓口でも同様のご苦勞はされていることと思いますが、やはりそれをバックアップするひきこもり支援ネットワークとしての検討委員会の存在は大きいと考えます。

最近、他地域でも居場所の必要性が叫ばれるようになり、新宮市での社会参加支援センターの新設が実現しました。加えて、御坊市やかつらぎ町での動きも気になるのですが、やはり行政の姿勢が一番のポイントになってきます。それぞれの自治体の財政状況もありますが、生きづらさを抱える若者が未来に希望がもてるような地域づくりが広がっていくことを望んで、これからも活動が続けたいと思います。

『ひきこもり検討委員会感想』

若者サポートステーション with you 南紀 戸田 真矢

ひきこもり検討委員を2年間務めさせていただきました。検討委員会は様々な機関のメンバーから構成されているため、いろんな角度からの意見を聞くことができ、私にとっては大変勉強になる機会となっております。

また予防、啓発活動として、中学校を対象にした人生グラフ with コラージュに参加させていただいたことも、普段個々との関わりが多い訪問支援が活動の中心となる私にとっては、若い世代の元気な姿や素直な反応を見ることができ、また各支援機関を知ってもらいいい機会にもなり、大変貴重な経験となりました。

ひきこもり支援は、これをすれば大丈夫という決まったものではなく個々の状態に合わせて動いていく必要があります。またひきこもり状態にある期間が長くなればなるほど対応も難しくなってきます。そのためにもひきこもりを予防するという考えは非常に重要だと思います。啓発講演会や人生グラフなどの活動を通して、ひきこもり状態になってしまうことを未然に防いだり、また早い段階で支援機関とつながり対処できるようなケースが少しでも出てくると大変うれしく思います。

『ふれあい教室の子どもたちと

「冬空の雲から光がこぼれる時～冬の章～」の演劇を終えて』

社会福祉法人ふたば福祉会 米川徳昭

ここ4年、不登校子どもたちと演劇を続けてきました。例年、子どもたちが卒業したり、状況が好転したり、また、悪くもなったりしながらも、子どもたちの集団は進化していることに驚いています。

今年度の劇は、「いじめ」をテーマにしました。予想通り、脚本の読み合わせ段階で気分を悪くする子どももいたそうです。今までの脚本は、大事なことを伝えるために、あるいは演技する子どもたちが、傷つかないように配慮し、大事な部分を擬人化し、妖怪や犬が代弁する手法を使いましたが、今回は、不登校の要因ともなる「いじめ」を代弁者なしでストレートに描きました。しかしながら、心配をよそに、演劇の終えた後の子どもたちの顔は優々たるものでした。子どもたちの中にある秘めた力と可能性に、また、驚き、感激させられました。

劇の一説に、こういう場面があります。

美優 「今回の事件は、今、この学校にある全体のいじめの一つに過ぎないの。だから、今日ここに集まっているみんなも少しは経験あるでしょう。直接、いじめをしてなくても、知ってて無関心でいる人や知らんふりをする人、だから、結局、今回の事件は全員の責任として罰せられるべきなの」

会場の声 「それ、おかしくないか」

武威 「美優がいうとおり、俺たちは日常にある小さいいじめを無視し、放棄してきた。だから、俺たちが犯人だ」

なかなか子どもの社会では劇で描くような勇気ある行動はとれないかもしれませんが、「いじめが存在する学校や社会」は、どの子どもにも決して、過ごしやすい場所ではないのは事実です。

学校へ行けなくて現実に苦しんでいる子どもたちだからこそ、この劇の意味は輝くし、彼らこそヒーローになれると思っています。

私自身は、ひきこりの青年や不登校の子どもたちへの大切な言葉かけや支援は大変下手でできませんが、私なりのやりようで、彼らが輝く時間をつくりたいと思います。

『ひきこもり支援とは??』

田辺市社会福祉協議会 龍田 俊夫

「家の中でずっとネットばかりしてるんや」と母親から相談を受けたことがありました。30代の男性でした。もう7年の付き合いになります。今は、単身アパートで生活保護を受給しながらですが、ぼちぼちやっています。ネットで知り合った県外の彼女ができ同棲していたこともありました。

彼とのつきあいの中で、本人だけでなく、父の課題、母の課題、きょうだいの課題に向き合いました。彼が「ひきこもり」状態になる背景を探ったり、想像したり、本人・家族と確認したりというプロセスを繰り返しました。

彼と支援者の信頼関係ができ、彼の生きていく将来の見通しの一部に、僕たちの支援機関はしっかりと自分を応援してくるところだと定着してくれたのだと思います。

しかし彼が動き出したのは、こちらの仕掛けに応じた訳ではなく、彼が彼自身のタイミングで動き出しています。彼が動き出すきっかけの一部として、多少僕たちをあてにしてくれていたとは感じています。

「ひきこもり」支援をしたというより、彼や家族の抱えている課題をいっしょに考え、その時間の流れの中で、「他のだれか」ではなく「自分自身」がやらないと始まらない機会に直面し、そのいいタイミングで僕たちは、彼の近くに存在できたという印象です。

ひきこもり状態になる原因や背景は、みんな違います。たとえ社会の主流から外れても、病気になっていても、親の資産をあてにしているとしても、ずっとひきこもったままでは、本当にもったいないなあと感じます。手を変え品を変え、支援機関は本人・家族らと関わり続け、同時に社会に変化を求めていく場所がこの検討委員会だと考えます。委員として参加できたことで、いろんな視点から話し合う機会に恵まれました。本当にありがとうございました。

『帰ってきてしまいました・・・。』

田辺保健所 精神保健福祉相談員 栗田 直嗣

三年間田辺を離れ精神科医療の現場でソーシャルワーカーとして業務、そのまま、退職を迎える予定が……。残り2年を田辺でとのお達し。

ひきこもり検討委員会も若者に譲りたかったのですが戻ってしまいました。

前回、赴任中の8年間もそうでしたが、あんまり役に立てずに1年が過ぎ、残すはあと1年……。現役最後のしめくり、隅っこでさせて下さい。

『委員になって』

田辺市教育委員会 生涯学習課 廣畑 明央

生涯学習課の担当として、通算で4年間ひきこもり検討委員会委員として参加させていただきました。小委員会での協議内容は専門的で、自分から発言できることは少なかったのですが、田辺市が行っているひきこもり支援の取組みについて知るとともに、ひきこもり支援について考える機会を持つことができました。今後におきましても、生涯学習課の立場から何ができるかを考えていきたいと思います。ありがとうございました。

『「新たな不登校を生まない」ために』

学校教育課 新谷 憲史

学校教育課の担当として、2年間ひきこもり検討委員会でお世話になりました。現在田辺市の小中学校では、「不登校」問題が大きな課題の一つであります。特に「新たな不登校を生まない」取組の必要性が大きい状況です。そのような中、ひきこもり検討委員会に参加させていただき、今後の不登校対策を考える中で大きな示唆を得られたような気がします。今後も、各機関の方々とのつながりを大切にし、「チームとしての学校」づくりを展開していければと考えております。

『ひきこもり検討委員会(感想)』

やすらぎ対策課 障害福祉室 岩本 あけみ

障害福祉室からひきこもり検討委員会に参加させていただきました。この会を通して私自身、様々な勉強をさせていただき、日常業務にも役立っているように思います。

障害福祉の部署では、精神や知的、身体の障害を持つ方々に対して家事支援や施設入所、就労支援などのサービスの支給決定を行っています。対象者は、障害者に限定されています。しかし、相談窓口には、障害認定がなされていなくても、生きにくさや暮らしの上で様々な悩みを抱えている方も来られます。そういった方々の中に、様々な事情からひきこもりがちな生活を送っておられる方が少なからずおられます。

最近では、生活困窮者自立支援法が施行され、一般市民を対象にした暮らしの相談窓口ができ、生活の立て直しや就労支援につなげる取り組みが始まり、40歳以上のひきこもり者に対するひきこもり対策としての期待が寄せられています。しかしながら、実際、人が

Ⅱ. 田辺市ひきこもり検討委員感想

生きていくのに不可欠な経済問題について、障害年金の受給や就労に繋がらない人たちに対してはどんな解決法があるのか。どこまで行っても現行の制度に乗らない人をどうするのか、という問題が残ります。

長く委員をさせてもらっていますが、この問題の解決には色々な困難が立ちはだかっています。それでも、時にこの会が、柔軟な発想をもって新たな生き方を探る話し合いの場になることもあり、毎回楽しみにしています。

Ⅲ－１. 相談実績

１. 相談実績 平成 28 年度

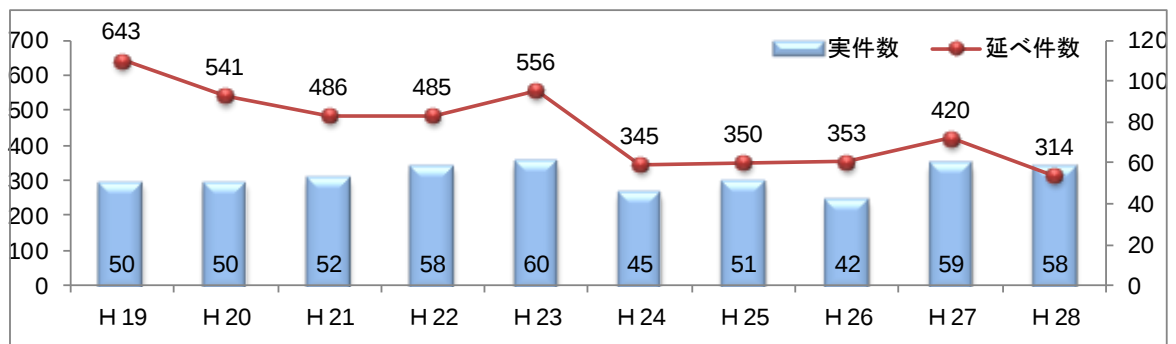
相談窓口開設以降、平成 29 年3月末までに 592 家族 615 件の相談がありました。

(内、平成 28 年度は 25 家族 26 件)

(１) 年度別相談件数

平成 19 年度から平成 28 年度の 10 年間の相談実件数、延べ件数の推移を示す。
平成 28 年度は、前年度に比べ、実件数、延べ件数とも減少している。

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
実 件 数	50	50	52	58	60	45	51	42	59	58
延 べ 件 数	643	541	486	485	556	345	350	353	420	314



(２) 平成 28 年4月～平成 29 年3月までの状況

① 月別相談延べ件数

相談件数では、来所の相談がもっとも多く、次いで電話相談である。

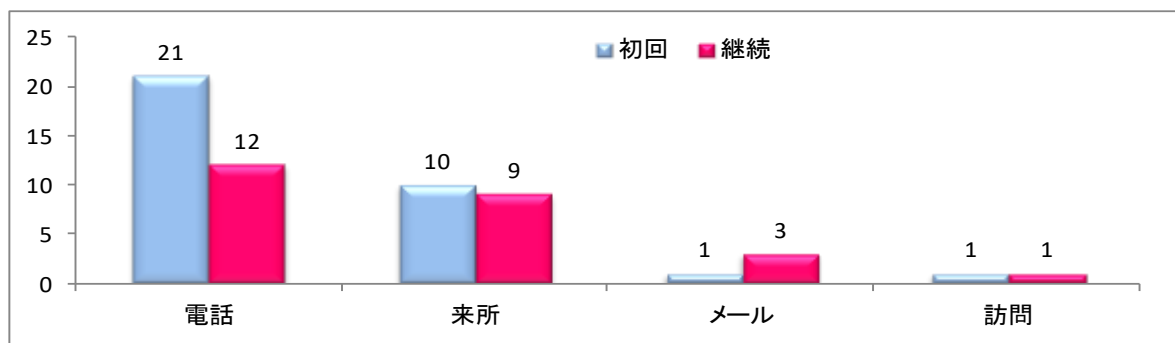
Ⅲ－１. 相談実績

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期合計	
電 話	13	11	9	12	10	14	69	
来 所	16	13	13	16	12	14	84	
メー ル	3	1	4	1	4	0	13	
訪 問	1	1	1	0	0	2	5	
合 計	33	26	27	29	26	30	171	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下半期合計	総 合 計
電 話	10	3	11	5	10	11	50	119
来 所	16	17	13	11	12	13	82	166
メー ル	0	0	0	1	1	3	5	18
訪 問	1	0	0	2	1	2	6	11
合 計	27	20	24	19	24	29	143	314

② 相談実件数

相談実件数、初回の実件数は、電話相談が一番多く、次いで来所相談である。

	初 回	継 続	合 計
電 話	21	12	33
来 所	10	9	19
メー ル	1	3	4
訪 問	1	1	2
合 計	33	25	58



③ 相談者

初回は母からの相談が最も多い。

延べは、母からの相談がもっとも多く、次いで本人からの相談である。

	母	父	妻	両親	本人	兄弟姉妹	祖父母	祖母	祖父	関係者	知人	叔父	叔母	合計
初回	15	4	0	0	3	0	1	3	0	5	4	0	2	37
延べ	99	20	1	4	97	2	2	51	1	49	4	1	2	333

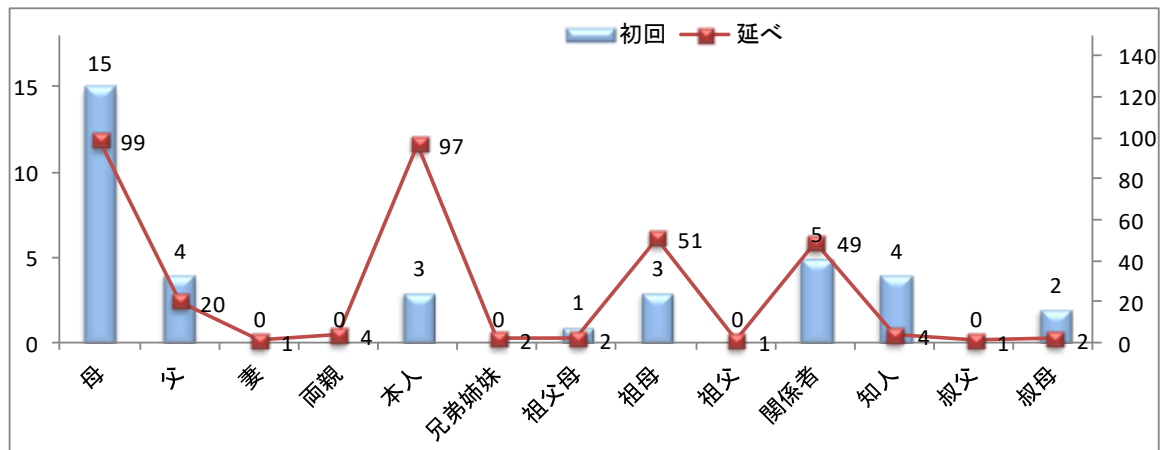
※ 初回は、3件が重複

内訳 母・関係者(2) 母・叔母・関係者(1)

※ 延べは、14件が重複

内訳 母・本人(1) 両親・本人・関係者(2) 母・関係者(6) 両親・関係者(1) 祖母・関係者(1)

母・叔母・関係者(1) 母・本人・関係者(2)

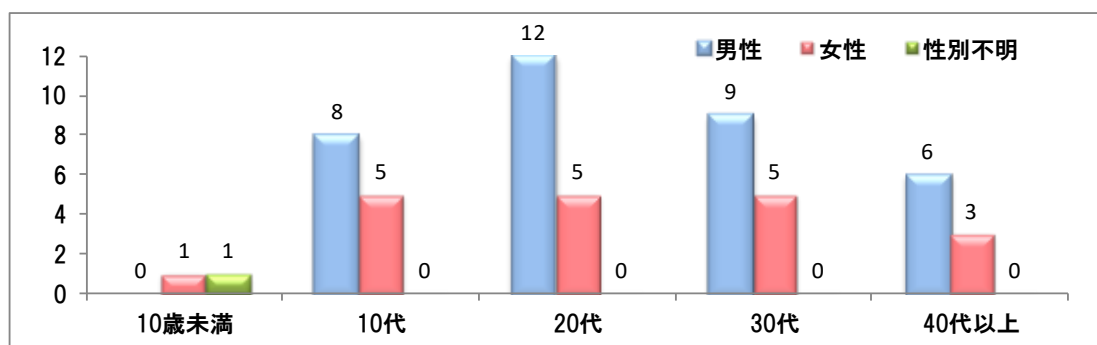


④ 年代別男女別件数(58 件中)

年代別に見ると、20代がもっとも多く、次いで30代、10代の順である。

男女別に見ると、男性が60%である。

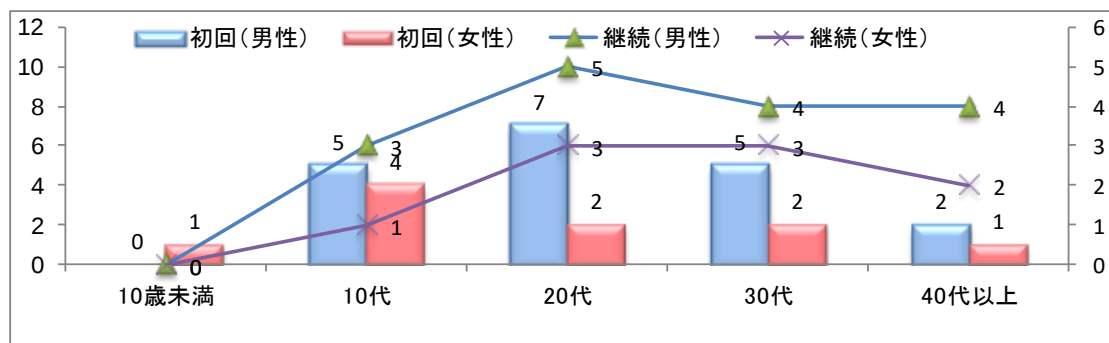
	10歳未満	10代	20代	30代	40代以上	年齢不明	合 計	%
男 性	0	8	12	9	6	0	35	60
女 性	1	5	5	5	3	1	20	35
性 別 不 明	1	0	0	0	0	2	3	5
合 計	2	13	17	14	9	3	58	
%	4	22	29	24	16	5		



⑤ 年代別男女別、初回及び継続件数(男性 35 件中・女性 19 件中)

Ⅲ－１．相談実績

	10歳未満	10代	20代	30代	40代以上	合計
初回（男性）	0	5	7	5	2	19
初回（女性）	1	4	2	2	1	10
継続（男性）	0	3	5	4	4	16
継続（女性）	0	1	3	3	2	9
合計	1	13	17	14	9	54

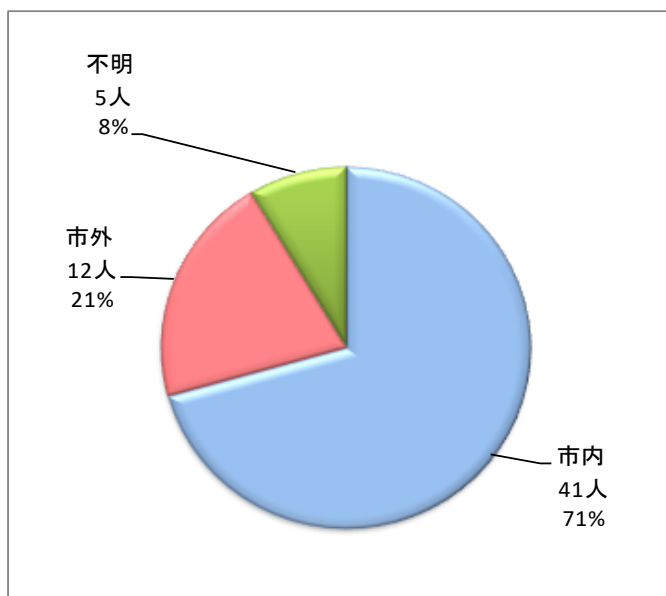


※ 4名は、年齢、性別等不明

⑥ 居住別（58 件中）

居住地別では、市内が約 70%である。

市 内	41	71%
市 外	12	21%
不 明	5	8%
合 計	58	



⑦ 相談結果（58 件中）

相談を継続する者が、42%、終了が5%、紹介が 12%、その他が 41%である。

継 続	24	42%
終 了	3	5%
紹 介	7	12%
そ の 他	24	41%
合 計	58	

終了

- ・就労(2)
- ・就学(1)

紹介

- ・南紀若者サポートステーション(1)
- ・家族会(1)
- ・保健所(2)
- ・ゆめふる(2)
- ・地域包括支援センター(1)

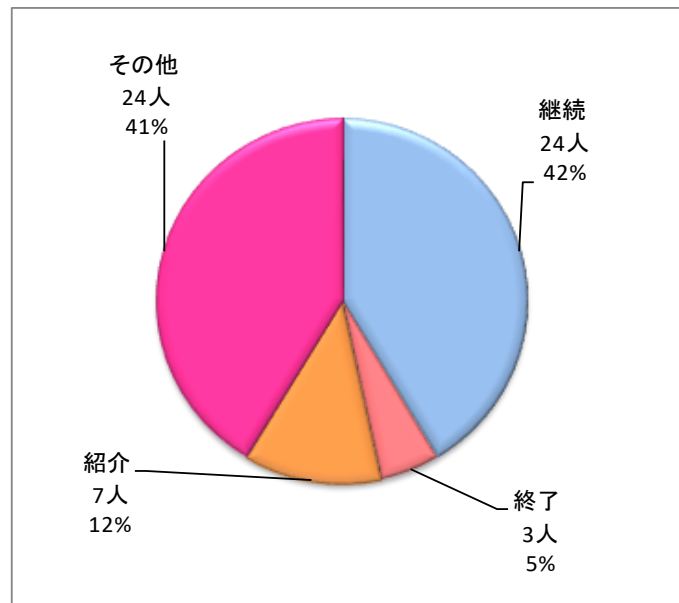
その他

3カ月未満の相談

- ・家族・関係者からの相談(1)
- ・家族・本人からの相談(2)

1回のみ相談

- ・本人からの相談(3)
- ・家族からの相談(10)
- ・家族・関係者からの相談(1)
- ・知人からの相談(4)
- ・関係者からの相談(2)
- ・親戚からの相談(1)

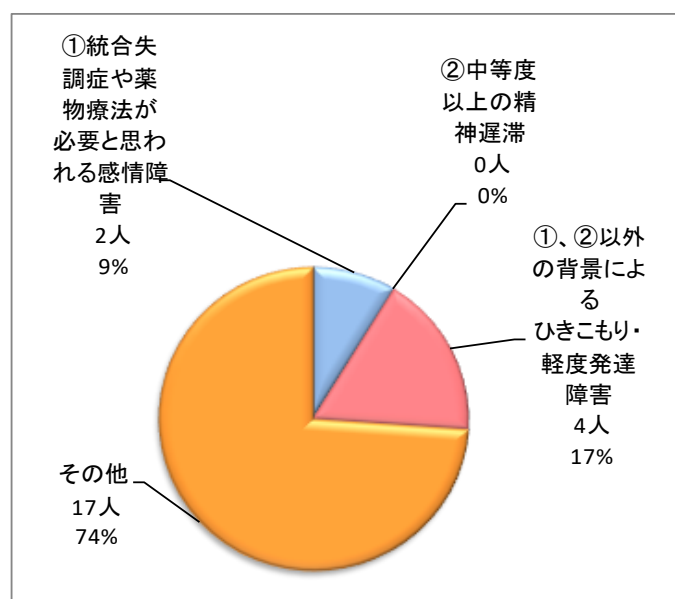


(3) 継続相談について

① 相談分類(23 件中)

継続して相談に来られる方の中で、疾病や障害のないひきこもりの方が、約 70%である。

①統合失調症や薬物療法が必要と思われる感情障害	2
②中等度以上の精神遅滞	0
①、②以外の背景によるひきこもり・軽度発達障害	4
そ の 他	17
合 計	23



② 相談状況(重複あり)

Ⅲ－１. 相談実績

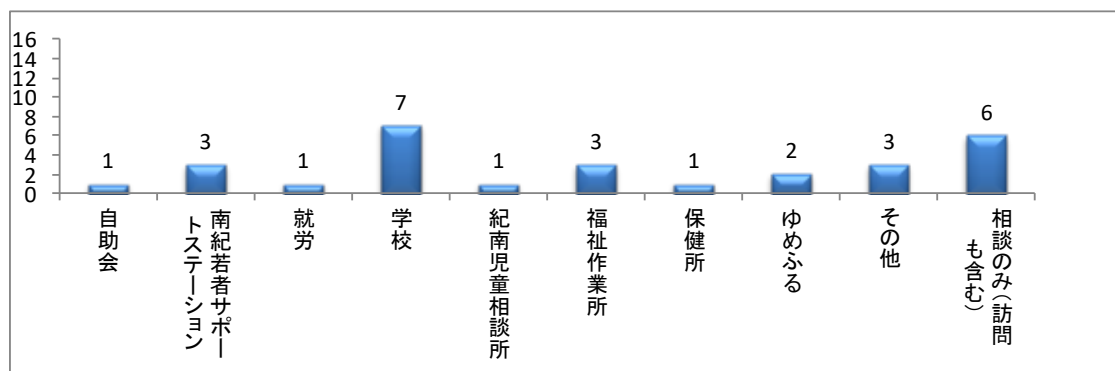
継続状況は、学校が7件と一番多く、次いで相談のみが6件と多い。

自 助 会	1
南紀若者サポートステーション	3
就 労	1
学 校	7
紀 南 児 童 相 談 所	1
福 祉 作 業 所	3
保 健 所	1
ゆ め ふ る	2
そ の 他	3
相 談 の み (訪 問 も 含 む)	6

※ 相談のみ(訪問も含む)は、
自助会や他の支援を利用していない方。

※ その他の内訳は、
福祉サービス利用(1) 病院のデイサービス利用(1)
ボラリス(1)

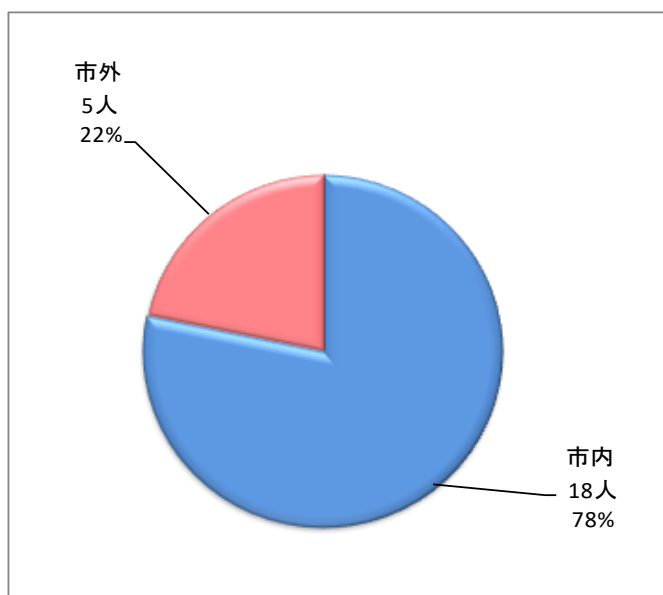
※ 医療機関に定期的に受診されている方が、9件。



③ 継続居住別(23 件中)

居住地別では、市内が約 80%である。

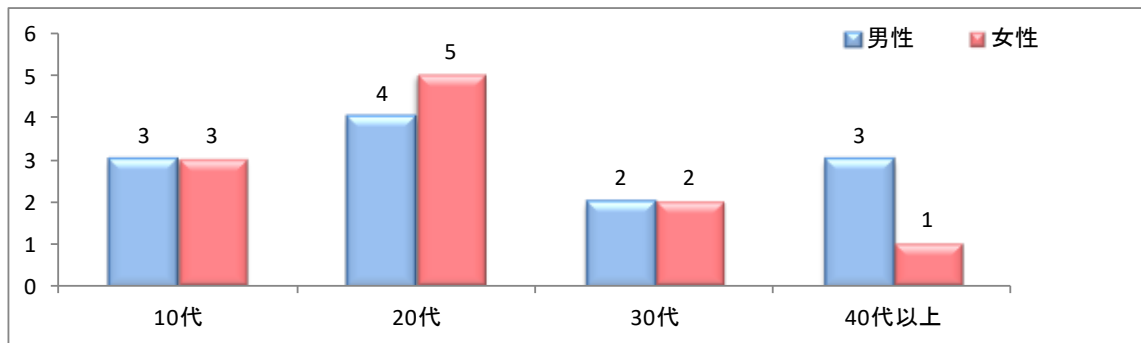
市 内	18	78%
市 外	5	22%
合 計	23	



④ 継続年代別男女別件数(23 件中)

年代別に見ると、20 代が一番多く、次いで 10 代となっている。

	10代	20代	30代	40代以上	合計
男性	3	4	2	3	12
女性	3	5	2	1	11
合計	6	9	4	4	23



Ⅲ－2. 支援の報告

（1）家族会（原則月1回）

ほっこり会（紀南地方ひきこもり家族の会）実績

（平成16年4月より自主運営）

実施日	内 容	出席者				実数	参加家族数	対象家族数
		父	母	その他関係者	窓口			
H28.4.12	話し合い	0	2	1	3	6	2	4
H28.5.10	話し合い	0	2	0	2	4	2	
H28.6.14	話し合い	0	2	1	2	5	2	
H28.7.12	話し合い	0	3	1	2	6	3	
H28.9.13	話し合い	0	3	1	2	6	3	
H28.10.11	話し合い	0	2	1	2	5	2	
H28.11.8	話し合い	0	3	1	2	6	3	
H28.12.13	話し合い	0	1	1	2	4	1	
H29.1.10	話し合い	0	1	1	2	4	1	
H29.2.14	話し合い	0	4	1	2	7	4	
H29.3.14	話し合い	0	2	0	2	4	2	

（2）青年自助会実績（原則月2回）

Ⅲ－２．支援の報告

実 施 日	内 容	出席者	窓口	実 施 日	内 容	出席者	窓口
H 28 . 10 . 7	話 し 合 い	1	2	H 29 . 1 . 6	話 し 合 い	1	2
H 28 . 10 . 21	話 し 合 い	1	2	H 29 . 2 . 3	ジグソーパズル作り	1	2
H 28 . 11 . 4	ジグソーパズル作り	1	1	H 29 . 2 . 17	ジグソーパズル作り	1	1
H 28 . 11 . 18	話 し 合 い	1	2	H 29 . 3 . 3	ジグソーパズル作り	1	2
H 28 . 12 . 2	年 賀 状 作 り	1	2	H 29 . 3 . 17	話 し 合 い	1	2
H 28 . 12 . 16	ク リ ス マ ス 会	1	2				

(3) 啓発活動・視察・問い合わせ

○ 啓発活動

日 付	内 容	人 数
H 28 . 8 . 30	南紀高等学校教育対策研究会	47 名

○ 視察

H 28 . 4 . 13	兵庫県佐用町民生委員	17 名
---------------	------------	------

○ 問い合わせ

東京都三鷹市議会議員
千葉県鎌ヶ谷市
山梨日日新聞

(4) ひきこもり支援啓発講演会

主 催 : 田辺市ひきこもり検討委員会/田辺市/和歌山県子ども・若者支援地域協議会
共 催 : 若者サポートステーション With You 南紀
後 援 : 社会参加支援センターひなたの森/田辺市教育委員会
田辺市社会福祉協議会/田辺保健所
和歌山県精神医学ソーシャルワーカー協会/(公社)白浜・田辺青年会議所
朝日新聞和歌山総局/毎日新聞和歌山支局/読売新聞和歌山支局
産経新聞社/紀伊民報社/NHK 和歌山放送局/(株)テレビ和歌山和歌山本社
(株)和歌山放送/FM TANABE(株)
日 時 : 平成 28 年 12 月 3 日(土)
演 題 : 「ひきこもり支援啓発講演会」～地域・支援者・家族にできること～
講 師 : 徳島大学大学院総合科学研究部 准教授 境 泉洋 氏
参加者 : 94 名(ひきこもり検討委員・関係者・事務局含む)



【講演内容】

○ひきこもりの現状

[ひきこもりの定義]

様々な原因の結果として社会的参加を回避し、おおむね家庭にとどまり続けている状態の人たちをひきこもりと呼んでいます。ひきこもりの人というのは、社会参加することが苦手な人たちです。

いろんな理由から苦手ですが、社会参加してもらうためには二つの方法があります。

一つは現実を思い知らして脅す方法。この方法はうまくいきません。

もう一つの方法は、社会参加したいなと思うような関わり方をしていく、つまり社会参加していたほうが自分にいいことがあると思ってもらう、こちらの方がひきこもり支援として大事です。

定義には続きがあり、確定診断がなされる前の統合失調症が含まれていることがあります。ひきこもっている人が、病気にかかっている事がよくみられます。統合失調症の人には、薬を飲んでもらう事が大事な治療です。妄想、幻覚、幻聴があり、話がかみ合わない場合もあるので、背景を受け止めたうえで支援することが一番大事なことです。

[ひきこもり概念の関連]

ひきこもりは、主に三種類に分類されます。

- ・ 精神疾患症状がないひきこもりで、一次性のひきこもり。
- ・ 精神疾患の症状がある、二次性のひきこもり。
- ・ ひきこもっているうちに精神疾患が出る零次性のひきこもり。

つまり、ひきこもりという言葉にどんな意味があるのか、どのタイプのひきこもりなのかによって関わり方が違ってきます。どんな方法があるのか紹介します。

[ひきこもりの三分類と支援のストラテジー]

第一群

薬物療法が効く人。薬に対していやな思いをした人、間違った使い方ですつらい思いをした人もいますが、効く人にとってはとてもいいことです。

第二群

発達障害の診断を受けるなど発達特性に応じた支援が効果的な人がいます。ひきこもりになりやすい発達障害の方は比較的症状が軽いです。なぜなら、明らかに重い人は小さい頃に発見され、療育を受けることができます。療育を受けることで自分自身も、親も納得します。

ひきこもりに多いとされる症状の軽い子は、確かにちょっと気になる子だけど、教室で座っているぶんには問題がありません。勉強も苦手だけど、一番できないわけではなく、決め手に欠けます。こういった子たちがひきこもりの子の中に多いです。ごまかしごまかし学歴をつないでいきます。なかには大学院まで出る子もいます。最終的に仕事でつまづきます。20歳を超えて発達障害の診断を受けるケースがあります。ただ、発達障害の人は、周りの方が配慮してくれたら普通に働くことができます。

第三群

カウンセリングが効果のある人。薬が必要な人に、カウンセリングだけをしていても効果がありません。発達特性を考慮すべき人にもカウンセリングだけではうまくいきません。ひきこもりという言葉だけでは、わからない事がたくさんあります。ひきこもりの特性を見極める必要があります。

[ひきこもりの疫学調査]

どれくらいひきこもりの人がいるか、厚生労働省が行った調査では、「ひきこもり」がいる世帯は、全世帯数の0.5%です。

内閣府が行った調査では、趣味のときだけ外出する準ひきこもりも含め広めにとると70万人、秋田県藤里町で全世帯訪問し調査したところ8.74%がひきこもっていました。しっかり調べるとかなりいるのではないかとされているのがひきこもりです。

2016年9月に公表された内閣府の調査では54万人です。前回70万人だから減ったのか？サポステも10年経って、39歳までの若い子の人には効果を上げています。ただ、この調査は40歳以上の人については調べていません。

〔家族調査の概要〕

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会という親の会があります。2004 年から全国規模の調査をしていてわかってきたことを紹介します。

親の会に来ている人は、お母さんが多いです。ひきこもりの人の特徴としてほとんどが家族と同居しています。同居しているということは家族が関わる余地があります。

ひきこもりの特徴として男の人に多い、8割が男性です。

本人が相談に行っているか調査してみると、だいたい2割。8割は相談に行っていないです。

〔本人の年齢と初発年齢の推移〕

本人の年齢は、27 歳から始まり、今 33 歳。33 歳から頭打ちになってそこから年齢があまりあがっていません。ひきこもりの始まりの年齢は 20 歳。その後も変わりません。

〔親の年齢の推移〕

お父さんの年齢 67 歳、お母さんの年齢 62 歳で、あがらなくなっています。

そのくらいの年齢になったら、ひきこもりから脱却するということもあるかもしれませんが、親の会に来ることができなくなっています。親自身が動けなくなることが年齢が止まっているということにつながっているのではないかと思います。

〔経済状況の変化〕

2006 年と 2015 年の比較。2006 年世帯年収 538 万円。2015 年世帯年収 444 万円。

10 年前に比べ年収がかなり減っています。

本人にかかる費用は増えています。

親が居なくなった後のことを心配して、親がもらった年金で子どもの年金を払っていることもあります。

〔兄弟姉妹を支援する意義〕

兄弟が相談に来ることはあまりありません。

自分の生活があるので、月一回の親の会に来ることはあまりありません。

本人と大きく違うのは、ほとんどの人は同居していない、遠くにいてどこにもつながっていないひきこもりの兄弟を案じて何とかしてあげたいという人たちです。

こんなに頑張った自分よりも親はひきこもっているきょうだいの方を気にしていると、複雑な感情を抱いているきょうだいもあります。しかし、何とかしたいと思うきょうだいもあります。

○ひきこもりの家族支援

本人と家族が一緒に住んでいます。一緒に住んでいるということは有利です。影響を与えやすい、それをうまくいかしていこうというのが家族支援の考え方です。家族の中で誰も支援を望んでいない状況は支援しにくいです。

家族が来ることができる場合

次の課題は本人が来れるかです。サポステの就労支援など使える社会資源があります。

本人につながれるか、大きなテーマとなります。

家族とだけ話をしてよくなるケースもあります。家族が変わるということで本人が変わることもあります。

Ⅲ－２．支援の報告

本人が来ることができる場合

家族に本人を連れてきてもらうポイントが二つあります。

一つは家族に対して何をするかという点で、家族に対して使っているツールは CRAFT(クラフト)というものがあります。

もう一つのポイント、本人と会うとき何をするか、受け入れる側の準備、認知行動療法を使います。家族がやっと連れてきたのに、対応がまずければあんなところに行っても意味がないんじゃないかと思わなくなってしまう。受け入れる側のスキルも必要になります。

[ひきこもり状態に対する認知行動療法による支援]

ひきこもりの支援には、3つの段階があります。

最初は、家族支援。土台みたいなものです。それができた後、本人支援をすると効果的です。本人が頑張っているのに家族が気付かないと、頑張る気持ちがなくなります。家族が理解して、「よく頑張っているね、その調子だとうまくいくよ」と家族が支えることが大事です。

本人支援も大事ですが、それを支える家族支援も大事です。

もう一つ決定的に重要なものがあります。それは、コミュニティづくりです。

本人支援をして、本人がとてもやる気になっているのに、行く場所がどこもない、頑張ったのにコテンパンにやられて帰ってくるとなると悲しいです。その人たちを理解し一緒に頑張ろうよという資源がないとひきこもり支援は完成しません。

家族支援、本人支援にコミュニティづくり、この3つが連動していかないとひきこもり支援はうまくいきません。3本の柱が必要となります。

[CRAFTによるひきこもりの家族支援ワークブック]

CRAFTによる家族支援。ワークブック形式で、本を見ながら一人でもできるようにしています。

[CRAFTとは]

コミュニティ強化。コミュニティとは、ひきこもっている人と周りの人とのつながりで、強化とは、関係を豊かにすることです。

その人を取り巻く人とのつながりを豊かにしていこうということが、コミュニティ強化です。

家族としていい役割を果たしてくれるので、家族と一緒にやろうよということで、コミュニティ強化と家族訓練という言葉に込められています。

コミュニティ強化がなぜ必要か。コミュニティとは、外とのつながり、外につながりがない人だから、外とのつながりが豊かになると、そこに行きたくなくなってきます。家にいる必要がなくなる、そのような考え方です。

もともと物質乱用者の家族に行っていたプログラムで、薬をやらなくても自分が満たされるという、コミュニティ強化の考え方です。

日本では、この CRAFT をひきこもり支援に使っています。

[CRAFT によるひきこもり家族支援の効果]

83%の事例で相談機関につながる、43%は受療に至ります。これまでの研究から、CRAFT を家族が受けることで、ひきこもっている人の半分くらい変化がみられるということが分かりました。

自助グループと比較し、CRAFT の方がよくなっています。CRAFT は、いったん良くなった後、悪くはなりません。良くなった状態が続いています。

これはひきこもりの人は変化がないわけではなく、その変化を家族の人が延ばせていないということです。CRAFT を使うことによって、家族がその変化を延ばすことができるようになった結果が表れています。

[CRAFT の目的]

家族自身の機能回復。家族に元気になってもらうことです。

なぜ家族が元気になることが大事か。家族が追いつめられていると、うまく対応できないことが多いです。

家族の気持ちにゆとりがあるかないかが重要です。気持ちにゆとりがある家族なら、CRAFT ができます。ゆとりがないといつも通り、今まで通りの接し方しかできません。家族がゆとりを持ち、自分をいたわっていくことが大事と思っています。

それができると、本人との関係回復に取り組めるようになります。話し方のコツ、物事の見方などコツがいります。本人と社会をつなげることができるようになります

最初に見ないといけないのは、家庭内暴力がないか。家庭内暴力があると、まともに話ができません。家族が気持ちにゆとりを持っているか、お子さんとの関係はよくなっているか、親が来ると逃げたり、避けたりしていないか。お子さんは元気になっているか。家の中では自由に動いている、活動していると、元気になっているなどわかります。

その時に、家族関係の良循環を作ろうということを意識することを大事にします。

実際は、「本人のことを考え、本人のために頑張りましょう」とよく言われますが、それでは、家族にメリットがありません。家族がつかれます。

本人にもメリットが必要です。ほめてくださいとよく言われますが、ほめられたと思わないほめ方では子どもの方にメリットがありません。

どっちかにメリットがない関わり方ではうまくいきません。つまり、両方にメリットがある関わり方を練習することが家族支援では大事になります。

どんなことなのか、例えば、

家族：「最近ずっと部屋にいるね、何しているの？」

本人：「別に何もしてないよ、うるさいよ」

親は良かれと思って話しかけても、子供はしてほしくないことをしている。だから、いい反応をしない。では、どんなふうになればいいのか。

家族：「お茶でも飲む？はいどうぞ」

本人：「ありがとう」

家族：「たまにはのんびりするのもいいね」

両方にメリットがある関わり方です。こういう会話を増やしていけば、どんどん関係が良くなっていきます。

○ひきこもり本人への支援

高知県の教育委員会と一緒に作ったひきこもり当事者むけ「若者はばたけプログラム」このプログラムは、ひきこもり本人支援に大事なエッセンスが共通している部分があると感じており、行動活性化に似ていると思いました。そういった発想から作ったプログラムです。

高知県ではこのプログラムで、3 地区で 4 回の研修をしています。教える人も同時に育成しています。

心理学では、感情には、ポジティブ感情、ネガティブ感情があります。ポジティブ感情とは、いい気持ちになり視野も広がります。ネガティブ感情とは、人を委縮させます。

ひきこもり支援では、ポジティブ感情を大事にしていくことが大きなポイントです。ネガティブ感情は悪循環の元凶。いやな気持ちは後ろ向きになります。何をやっても無駄だと思えば、行動も消極的になり、成功しない、悪循環です。

まずは、ポジティブ感情を体験してもらうことです。達成感を体験してもらうと考え方が前向きになってきます。積極的にはたらきかけるようになります。成功体験が増える、良循環です。

この仕組みをうまく使えないかというのが、このプログラムの発想です。

行動することで、いい事が起こるとやる気になります。行動したとき、いい事が起こらないとやる気がなくなります。やる気になってもらうには、何か一ついい結果が起こるような工夫をしておくといいのではないかという発想の逆転です。どんな逆転かというと、多くの場合は、やる気がないから行動しないと考えます。つまり、やる気が出たらやろう。しかし、このプログラムの考え方は逆です。行動することがやる気を起こす、やる気の出る行動をしよう。そうするとやる気になっていくという良い循環をつくっていきましょうという発想で作られたプログラムです。

どんな発想を大事にしているか紹介します。

やる気の出る行動とは、「あなたの生活がわくわくするような行動」。わくわく感を大事にしています。わくわく感是人によって違うので、確認する必要があります。

わくわくポイントがあります。自分にとってとても重要なことです。義務感や世間体から生まれたものではなく、自分のために大切にしたいと思えることです。

わくわくポイントを意識しながら生きていくことで、楽になるだけではなく、人生がより明るい気持ちで満ちるようになります。

楽になるのと楽しくなるのとの違いが重要です。楽になるということは辛いことをしなくなる、楽になるには何かをやめればよいのです。

楽しくなるということは、楽しくなることをする必要があります。何かをしないとダメです。

「何かをするとよい」と、「何かをやめればよい」は、全然違います。

楽になる究極の方法は、ひきこもることです。楽しくなることは、ひきこもりから出ることです。

楽しくなるということを大事にしていこうということが、このプログラムの大事なポイントです。

楽になるのではなく、楽しくなろう。そういうメッセージが込められています。

わくわくポイントをどうやってみつけるのかですが、わくわくワークに大事にしたいことを自由に書いてもらいます。自分のわくわくポイントをみつけ、リストをつくります。わくわくするポイントだからやったら楽しくなります。楽しいからまたやろうと思います。良い循環が始まります。

その子に合った方法を見つけて、「うまくやってるね」とほめてもらうと、またやろうと思いい、うまくできたからまたやろうと思います。

補足すると、わくわくリストにはレベルがあります。最初のレベルは、常にやっていてわくわくできる活動、やろうと思えばすぐできる簡単なことです。そういうことばかりしていたら、肝心のところを避け続けます。例えば、サポステには近づかないがいろんなところには外出するようになります。これはサポステに行くことに対して回避が起こっています。大事な部分に対する回避は意識的に扱わないとよくなりません。

レベル 3 実行できるかわからないけど、挑戦するのに見合うだけのわくわくを得られる活動です。ちょっとその人には難しいなと思うものも1、2個入れておかないと回避がうまく扱えません。繰り返しやっていると、自然とできることが増えていきます。

○ひきこもり支援を通じたコミュニティ作り

家族支援をして本人が元気になっても出ていく場所がない場合、どうしたらいいのか。こうならないようにコミュニティづくりが重要になります。

コミュニティづくりについては、先に述べた KHJ 全国ひきこもり家族連合会の活動が参考になります。この会の創始者である奥山雅久さんがどんなことやってきたのかを紹介し

ます。

2000 年ひきこもりブーム、親の会の支部がたくさんできました。しかし、ブームは続きません。いき詰っていた時期もありましたが、粛々と活動が続けていました。地域づくりも続けていくことが大事です。ひきこもり支援センターや地域若者サポートステーションができたり、厚生労働省の動きがありました。

奥山さんが亡くなった後も、ふんばって続けていたところ、支部が急に増えだしました、10 年続けるとよいと思いました。

KHJ の活動の中で、ヒットしている活動を1つ紹介します。

「ひきこもり大学」、ひきこもりの経験の中から知り得たこと、わかったことを一般の人に教える企画です。

我々の親の会は当事者を巻き込みたかったのですが、大体は親が来ます。ひきこもり大学には当事者が来ます。ほとんどが当事者なので、当事者のつながりができます。

このようなことを本にまとめました。「地域におけるひきこもり支援ガイドブック」どんな人を対象にして書いたかという 8050 問題、生活困窮の観点も組み入れて書いた本です。この本の中でも特徴的な章について紹介します。

[第 2 章]

ひきこもりの意義あるいは意味。

ひきこもり大学につながる発想。ひきこもっていた 10 年間は全く無駄なものではなく、大切にしていこうという考えが込められています。

[第 3 章]

アセスメント

ひきこもりの状態をどうアセスメントするかが書かれています。

[第 5 章]

ひきこもりへの支援において重要となる技法

家庭訪問、電話相談、インターネットを使った相談について書かれています。

[第 6 章]

ひきこもりへの支援を通じた地域づくり

ひきこもり支援は、制度の隙間、いろんな制度の網からからぬけ落ち続け、学校・医療・福祉で救えなかった人たちです。どこにもつながれず家にいる＝ひきこもり。

その人たちを見ると、今の地域において足りないものが見えてきます。その人たちのためにできるものを増やしていく、それが地域づくりです。ひきこもり支援をしていると地域の課題が鮮明に見えてきます。それを解決するための方策を立てる、それがまさに地域づくりにつながるという考え方です。

ひきこもり支援を通じた地域づくりという発想です。我々が重要だと気付いた大事な視点であります。

[第 7 章]

就労

1 つの自立の仕方として、就労があります。ひきこもりの就労は、工夫が必要です。工夫すれば就職できる人はたくさんいます。そんなノウハウを集めました。

〇まとめ

ひきこもり支援について家族支援・本人支援・地域支援と 3 つの柱でお話ししてきました。

まず家族支援は、家族とひきこもり当事者の両方にメリットがもたらされる循環を作ります。

本人支援で何が大事か、その人が挑戦したいと思うものを少しずつやっていく。ポジティブ感情を大事にします。

概要でしたが、こういったイメージを共有していただけたらいいかなと思ってお話しし

Ⅲ－２. 支援の報告

た。



【資料】

2016.11.27
14:00～16:00

ひきこもり支援啓発講演会
～地域・支援者・家族にできること～

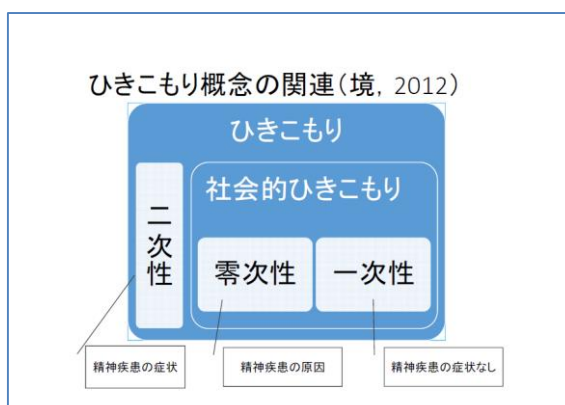
徳島大学大学院総合科学研究部

境 泉 洋

ひきこもりの現状

ひきこもりの定義(齊藤, 2008)

- 様々な原因の結果として社会的参加(義務教育を含む就学, 非常勤職を含む就労, 家庭外での交遊など)を回避し, 原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)を指す現象概念である。
- なお, ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病的現象とするが, 実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は低いことに留意すべきである。



ひきこもりの三分類と支援の戦略

第一群	統合失調症、気分障害、不安障害などを主診断とするひきこもりで、薬物療法などの生物学的治療が不可欠なものはその有効性が期待されるもので、精神療法的アプローチや福祉的な生活・就労支援などの心理・社会的支援も同時に実施される。
第二群	広汎性発達障害や知的障害などの発達障害を主診断とするひきこもりで、発達特性に応じた精神療法的アプローチや生活・就労支援が中心となるもので、薬物療法は発達障害自体を対象とする場合と、二次障害を対象として行われる場合がある。
第三群	パーソナリティ障害（ないしその傾向）や身体表現性障害、同一性の問題などを主診断とするひきこもりで、精神療法的アプローチや生活・就労支援が中心となるもので、薬物療法は付加的に行われる場合がある。

ひきこもりの評価・支援に関するガイドラインp.24

3

ひきこもりの疫学調査

- ・「ひきこもり」がいる世帯数は、低めに見積もっても約232,000世帯(全世帯数の0.5%) (Koyama et al., 2010)。
- ・趣味の用事の時だけ外出する「準ひきこもり」を含めた広義のひきこもりの推計は69.6万人(内閣府, 2010)。
- ・18歳から55歳までのひきこもりは町民1293人の8.74%にあたる113人(秋田県藤里町社会福祉協議会, 2010年2月～2011年8月)。

2016年9月公表 内閣府調査



7

KHJ全国調査

	家族	本人	兄弟姉妹	テーマ
1 壇ら(2004)	529			問題行動の実態
2 中村・堀田・壇(2005)	362			相談機関利用実態の把握
3 壇・中村(2006)	603			経済状況
4 壇(2007)	540	5		受療実態
5 壇・川原(2008)	331	53		本人調査、自由記述のまとめ
6 壇ら(2009)	426	83		ニーズ調査
7 壇ら(2010)	383	91		PC・ゲームの利用、有効な情報
8 壇ら(2011)	332	82		発達障害
9 壇ら(2012)	371	106		国際生活機能分類(ICF)
10 壇ら(2013)	312	92		親の会の役割
11 KHJ親の会(2014)	478	140		経済状況
12 KHJ親の会(2015)	310	58	7	経済状況、幸福度
	計 4977	710	7	

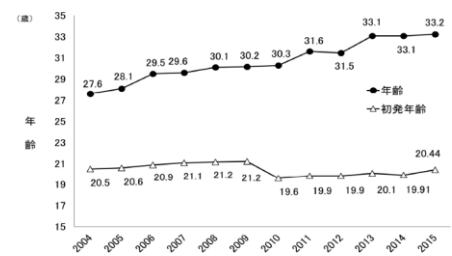
8

家族調査の概要

	回答者の性別			家族の同別居			本人の性別			相談 家族 本人	
	父親	母親	他 不明	同居	別居	不明	男	女	不明		
2004	22.5	69.5	8.0	91.5	8.3	0.2	83.8	16.2	0.0	22.5	
2005	24.6	64.9	4.4	6.1			83.7	14.6	1.7	47.8	
2006				83.4	11.2	5.4	77.3	12.6	10.1		
2007	26.3	68.8	2.2	1.7	91.5	8.3	0.2	81.3	17.0	1.7	36.0
2008	33.2	61.3	2.7	2.7	87.9	10.0	2.1	82.1	16.1	1.8	
2009	30.8	65.3	1.2	2.8	85.9	9.9	4.2	80.0	16.2	3.8	33.7
2010	31.1	62.9	1.0	5.0	76.0	19.8	4.2	76.0	19.8	4.2	37.9
2011	31.0	61.7	1.8	5.4	85.8	11.1	3.0	75.6	19.0	5.4	
2012	26.6	62.9	1.4	9.2	77.4	12.7	10.0	74.0	16.7	9.3	56.7
2013	29.2	65.4	1.9	3.5	83.3	12.5	4.2	76.0	19.2	4.8	51.0
2014	26.2	69.2	1.3	3.3	84.7	11.1	4.2	75.7	21.3	2.9	42.5
2015	28.2	70.1	1.3	0.3	86.6	13.4	0.0	79.1	20.9	0.0	34.5

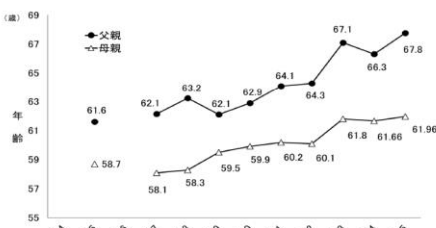
9

本人の年齢と初発年齢の推移



10

親の年齢の推移



11

経済状況の変化(家族調査)

- | | |
|---|---|
| 2006年 <ul style="list-style-type: none"> ・世帯年収: 538万円 ・本人にかかる費用: 月4.5万円(小遣、医療費) ・本人の年齢: 29.5歳 ・父親: 61.6歳 ・母親: 58.7歳 | 2015年 <ul style="list-style-type: none"> ・世帯年収: 444万円 ・本人にかかる費用: 月5.8万円(小遣、生活費、年金、保険) ・本人の年齢: 33.2歳 ・父親: 66.8歳 ・母親: 62.0歳 |
|---|---|

12

Ⅲ-2. 支援の報告

兄弟姉妹を支援する意義

本人の性別				
男	女	不明		
85.7	14.3	0.0		

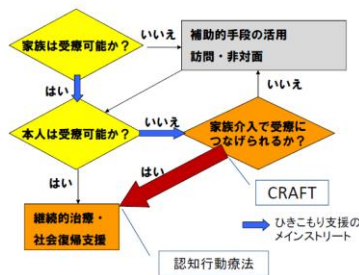
年齢	本人年齢	初発年齢	期間
39.14	36.71	18.86	18.01

同別居			相談	
同居	別居	不明	兄弟姉妹	本人
28.6	71.4	0.0	16.7	0.0

(N=7)

ひきこもりの家族支援

ひきこもり状態への支援の流れ (境, 2007に加筆)



ひきこもり状態に対する 認知行動療法による支援



CRAFTによる ひきこもりの家族支援ワークブック



This book is the kind of book that is not only comprehensive and compelling but useful to both therapists and researchers. Dr. Sakai has woven together the mechanisms of change for Hikikomori and the community reinforcement and family training (CRAFT) in a useful and creative way. This book examines related problem behaviors associated with Hikikomori, and discusses ways to understand these behaviors while using solid behavioral techniques to help the family members and the therapist. I can strongly recommend Dr. Sakai's book and I strongly urge psychologists and other practitioners to give this book a close read.

Robert J. Meyers, Ph.D.,
Senior Assistant Research Professor of Psychology
University of New Mexico, &
Director of Robert J. Meyers, Ph.D. & Associates

境・野中 2013 金剛出版 17

CRAFTとは？

- CRAFT (Community Reinforcement and Family Training: コミュニティ強化と家族訓練) プログラムは、主に受療を拒否する物質乱用者の家族などの重要な関係者を対象とした介入プログラム。
- コミュニティ強化とは、ひきこもり本人と周囲の人との関係を豊かにするということ。
- 本邦では、厚生労働省が作成したひきこもりの評価・支援に関するガイドラインにCRAFTプログラムが紹介される(齋藤, 2010)。

CRAFTによる ひきこもりの家族支援の効果

- 野中ら(2013)では、83%の事例にひきこもり状態の改善もしくは継続的な相談機関の利用といった効果が認められた。
- 山本・室橋(2014)では70%の事例で受療や社会参加といった改善が認められている。ただし入院を経由した人が27%含まれており、家族支援で受療に至った事例は43%となる。
- 境ら(2015)では、43%の事例にひきこもり状態の改善もしくは継続的な相談機関の利用といった効果が認められた。

CRAFTの効果(境ら, 2015)

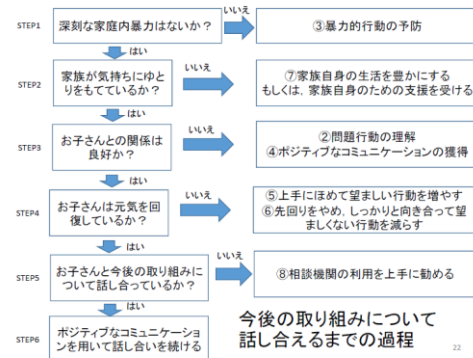
CRAFT									
開始前	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	4か月	6か月
1			改善	改善	改善	改/相	改/相	改/相	改/相
2			改善	改善	改善	相談	相談	改善	改善
3			相談	相談	相談	相談	相談	相談	相談
4									
5									
6									
7									

self-help									
開始前	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	4か月	6か月
1		相談				改善	改善		
2						相談			
3									相談
4									
5									
6									
7									

CRAFTの目的

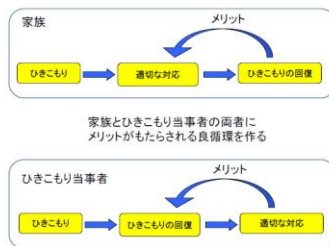
- ・ 家族自身の機能回復
- ・ ひきこもり本人と家族の関係回復
- ・ ひきこもり本人と社会をつなげる

23



22

家族関係の良循環



23

対応の変化

練習前

子: (夕方、テレビで野球を見ている時、リビングに降りてくる)
 母: 最近、ずっと部屋にいるけど何してるの? (警戒すること)
 子: 別に何もしてないよ。
 母: 何もしてないなら、これからのことも少し考えたら? (否定的に警戒すること)
 子: もう、うるさいんだよ。(2階に上がって)

練習後

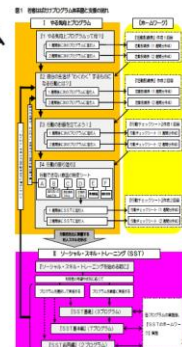
子: (夕方、テレビで野球を見ている時、リビングに降りてくる)
 母: お茶でも飲む? (安心すること)
 子: 飲む。
 母: (お茶を出す) はい、どうぞ。(安心すること)
 子: ありがとう。
 母: たまには、こうやってのんびり一緒にお茶を飲むのもいいね (笑顔) (短く、肯定的に、書き添えている行動を特定する。自分の感情を明確にする)

24

ひきこもり本人への支援

若者はばたけプログラム

- ・ Kanter, et al. (2009) の行動活性化に基づいたプログラム。
- ・ 行動活性化に続いて、必要な対象者に社会的スキル訓練を実施するプログラム。
- ・ 高知県教育委員会生涯学習課HPより全文ダウンロード可



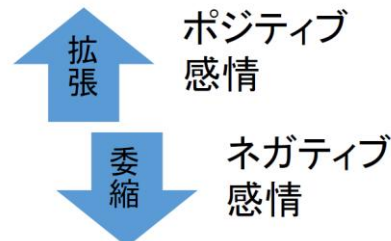
25

高知県での活用研修会

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
研修会	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月
研修会	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月	研修会 高知市立中央図書館 10時～11時 11月～12月

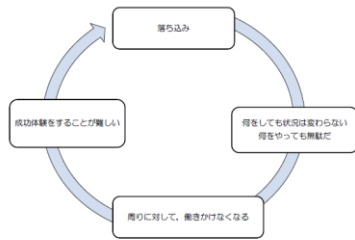
27

ポジティブ感情とネガティブ感情



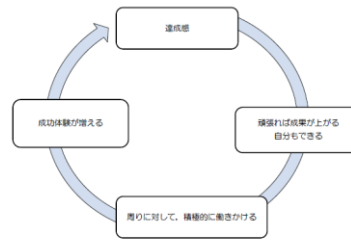
28

ネガティブ感情の悪循環



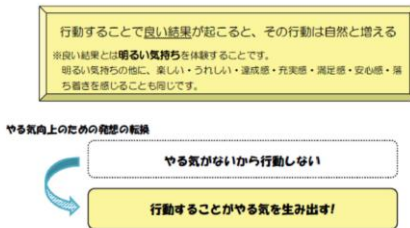
29

ポジティブ感情の良循環



30

行動できる仕組み



31

行動を選んでいくポイント



32

“わくわくポイント”とは？

- “わくわくポイント”とは？**
- 自分にとって、とても重要なこと
 - 義務感や世間体から生まれたものではなく、自分のために大切にしたいと思えること
 - “わくわくポイント”を大事にしながら、生きていきたいと思える
 - “わくわくポイント”を意識しながら生きていくことで、楽になるだけでなく、自分の人生がより明るい気持ちで満ちるようになる

33

“わくわく”ワーク

「仕事・勉強」「楽しめる活動・リラックスできる活動」「健康・自分磨き」「人間関係」で、「①大事にしたいこと、②現在の満足度、③重要度を考えてみましょう」

数字が大きいほど、満足度・重要度は高くなります

	①大事にしたいこと	②満足度 (1～10)	③重要度 (1～10)
仕事・勉強			
楽しめる活動・リラックスできる活動			
健康・自分磨き			
人間関係			

- “わくわく”のワークでは、利用者が大事にしたいことを自由に書いてもらう。
- 具体的なこと(例: 大学に合格する)でも、抽象的なこと(例: チャレンジする)でも何でも大丈夫です。

34

“わくわくポイント”を見つける



- “わくわく”ワークに書いたことの共通点を考える。
 - 難しい場合、重要度の高い領域に限定してもよい。
 - 具体的なことが出てきたら、なぜそれがあなたにとって大事なのかを考える。
- 例: 大学合格→教師になりたい→人の役に立ちたい
- 達成できない抽象的なことを書く。

35

“わくわく”リストのレベル

- レベル1: 既にやっていて、“わくわく”できる活動。
- レベル2: 今はやっていないが、確実に実行できて、“わくわく”できる活動。
- レベル3: 実行できるかどうかわからないが、挑戦するのに見合うだけの“わくわく”を得られる活動。

36

ひきこもり支援を通じた コミュニティ作り

プロローグ

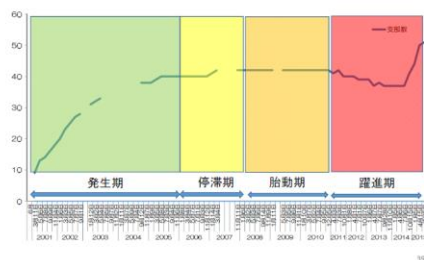


- ・奥山雅久氏
- ・1944年生まれ
- ・2000年6月KHJ親の会代表発起人
- ・2011年3月2日没(享年66歳)
- ・余命半年宣告でも引きこもりの家族救済に奔走し、親たちの「カリスマ」死去に想う1つの時代の終焉

〔池上正樹「引きこもり」する大人たち〕
第59回 2011年3月10日

38

KHJ親の会の支部数の推移



39

ひきこもり大学

- ・全国35か所対話集会を開催し、社会参加の場とする。
- ・ひきこもり当事者やひきこもり経験者、ひきこもり家族の参加を求める。
- ・広く一般にも参加を求め、社会参加のアイデアや理解・協力を求める

日本財団助成事業



40

地域における ひきこもり支援ガイドブック



- 著者一覧(所属は執筆当時)
- ・池上 正樹 (ジャーナリスト)
 - ・池田 信世 (KHJ理事長)
 - ・石川 良子 (松山大学 准教授)
 - ・川北 聡 (愛知教育大学 准教授)
 - ・斎藤まさ子 (新潟県立大学 教授)
 - ・境 泉洋 (徳島大学大学院 准教授)
 - ・鈴木美穂 (NPO法人名古屋オレンジの会 理事)
 - ・竹中 晋夫 (日本福祉大学 名誉教授)
 - ・田中 敦 (KHJ北海道「はまなす」事務局長)
 - ・中塚内正和 (ながおかのクリニック 院長)
 - ・野中 俊介 (早稲田大学大学院人間科学研究科)
 - ・斎田 孝哉 (KHJ事務局)
 - ・船橋 明子 (兵庫県立大学 准教授)
 - ・増田 由子 (KHJ東京支部長の会リーダ電話相談員)
 - ・丸山 康彦 (ヒューマン・スタジオ 代表)
 - ・幸田 武生 (NPO法人教育研究所 所長)

41

ガイドブックの対象

- ・80歳の要介護者の自宅に無職の50歳の子供が親の年金で生活している
- ・生活保護世帯の家庭に長期間働かず自宅中心の生活をしている子供がいる
- ・30代後半の利用者で数年間仕事をせず、自宅中心の生活をしていたが、親の介護や死亡を機に生活保護を申請しようとしている
- ・ひきこもり状態にあっても、現時点では家族の支えによって生活に困窮していないものの、家族の支えがなくなった場合に、生活困窮になる可能性がある

42

第2章 ひきこもりへの支援に必要な視点

- ・第1節 ひきこもりの心理
- ・第2節 ひきこもりと家族
- ・第3節 ひきこもりを生む社会
- ・第4節 ひきこもりの背景にある医学的問題
- ・第5節 ひきこもりの予防
- ・第6節 ひきこもりの意義あるいは意味

43

第3章 ひきこもりのアセスメントと評価

- ・第1節 アセスメントと評価のポイント
- ・第2節 ひきこもり状態にある人のアセスメント
- ・第3節 家族のアセスメント
- ・第4節 レジリエンス・チェックリスト

44

第4章 ひきこもりへの支援の展開

- ・第1節 把握・アウトリーチ(家庭訪問は後述)
- ・第2節 相談受付
- ・第3節 アセスメント
- ・第4節 支援プラン作成
- ・第5節 支援の実施
- ・第6節 モニタリング
- ・第7節 プラン評価・再プラン・終結

45

第5章

ひきこもりへの支援において重要となる技法

- ・第1節 家庭訪問
- ・第2節 電話相談(追加予定)
- ・第3節 インターネットを使った相談
- ・第4節 本人支援(相談室などでの対面的支援)
- ・第5節 家族支援
- ・第6節 居場所
- ・第8節 ビア・サポート
- ・第9節 医学的支援

46

第6章 ひきこもりへの支援を通じた地域づくり

- ・第1節 「ひきこもり支援」から「地域づくり」へ
- ・第2節 社会支援の“開発”と“発掘”
- ・第3節 既存の社会資源の活用
- ・第4節 包摂型支援の接点としてのメディアの活用
- ・第5節 「たらいまわし」を防ぐネットワークの運用

47

第7章 ひきこもりへの就労支援

- ・第1節 就労支援が目指すもの
- ・第2節 就労に向けたアセスメント
- ・第3節 就労に向けたプラン作り
- ・第4節 就労支援の実施
- ・第5節 ひきこもり経験を活かす中間的就労の場の創出・開拓

48

第8章 地域におけるひきこもり支援を学ぶ方法

- ・第1節 研修方法
- ・第2節 スーパービジョン
- ・第3節 管理的立場の主任相談支援員の役割

第9章 今後の課題

- ・第1節 本ガイドブックの効用と限界
- ・第2節 本ガイドブックの作成方法と改訂方法

付録

49

まとめ

ひきこもり状態に対する 認知行動療法による支援



51

(5) 田辺市ひきこもり検討委員会(平成 28 年度)議題

(出席者はひきこもり検討委員の人数)

第 1 回(H 28. 4. 23) 出席者 24 名	第 2 回(H 28. 10. 22) 出席者 20 名
・委員紹介 ・委員改選 ・田辺市のひきこもり支援について 平成 27 年度事業報告 平成 28 年度事業計画 ・その他 関係機関の紹介および意見交換 	・平成 28 年度上半期事業報告 ・平成 28 年度下半期事業計画 ・関係機関からの報告 ・講演 「ハートツリーの歩み」 NPO法人ハートツリー顧問・理事 酒井 滋子 氏 

小委員会(平成 28 年度)議題(出席者はひきこもり検討小委員の人数)

第 1 回(H 28. 5. 12) 出席者 10 名	第 6 回(H 28. 11. 10) 出席者 7 名
・小委員会での計画について ・平成 28 年度 講演会について	・平成 28 年度 講演会について
第 2 回(H 28. 6. 9) 出席者 11 名	第 7 回(H 28. 12. 8) 出席者 8 名
・平成 28 年度 講演会について ・リーフレットの作成について	・平成 28 年度 講演会について ・平成 29 年度 講演会について
第 3 回(H 28. 7. 14) 出席者 8 名	第 8 回(H 29. 1. 12) 出席者 8 名

Ⅲ－2. 支援の報告

・平成 28 年度 講演会について ・平成 28 年度 第 2 回ひきこもり検討委員会について ・リーフレットの作成について ・副委員長について ・「中学校での取り組み」の報告	・平成 28 年度 講演会について ・現状と課題について ・平成 28 年度 まとめの冊子について ・中学校での取組について ・平成 28 年度 講演会(交流会)について
第 4 回(H 28. 8. 4) 出席者 8 名	第 9 回(H 29. 2. 9) 出席者 9 名
・平成 28 年度 講演会について ・平成 28 年度 第 2 回ひきこもり検討委員会について ・リーフレットの作成について ・「中学校の取り組み」について	・平成 29 年度 講演会講師について ・現状と課題について ・平成 28 年度 まとめの冊子について
第 5 回(H 28. 9. 8) 出席者 10 名	第 10 回(H 29. 3. 9) 出席者 8 名
・平成 28 年度 講演会について ・平成 28 年度 第 2 回ひきこもり検討委員会について ・リーフレットの作成について	・平成 29 年度 事業計画について ・平成 29 年度 ひきこもり検討委員会について ・平成 28 年度 まとめの冊子について ・平成 29 年度 講演会について

(6) 中学校での取組について

【経緯】

ひきこもってしまうと、そこから抜け出すのは容易ではなく、ひきこもり支援においてはその予防及び早期支援が重要課題となる。しかし、いざ、ひきこもり状態になった時、専門家に相談した経験のない方や相談機関についてあまり知識のない方が実際に相談機関へ足を運ぶハードルは高い。ひきこもり状態になった場合、あるいは不応状態になったとき、どのような支援を受けることができるのかを中学校や高校などの在学中に知ってもらい、相談への心理的なハードルを下げてもらうことで、早期支援が可能になると考えられる。

相談機関を周知させる具体的取り組みとして、中学生や高校生など 10 代の生徒に対して PR することが将来のひきこもり予防に効果的であると考え、平成 26 年度に市内の A 中学校の協力を得て試行した。A 中学校での取り組みが参加生徒たちに良い効果をもたらしたことが感想文やその後のクラスの様子などから示唆されたので、平成 27 年度以降協力校を増やして実施することとなり、平成 27 年度には 2 校(B 中学校と C 中学校)、平成 28 年度は 3 校(B 中学校、D 中学校、E 中学校)で取り組みを行うこととなった。

【目的】

- ・相談機関の周知を図る。
- ・将来の自分はどのように生きていきたいかグループの中で考えることにより、楽しみながら自己理解と他者理解を深め、心理的成長の機会とする。

【方法】

過去・現在・未来の人生グラフを描き、人生に関連した写真、気に入った写真を雑誌か

ら切り抜いてコラージュする「人生グラフ with コラージュ」(LGT+C) (徳島文理大学人間生活学部心理学科講師: 東 知幸氏考案) というエクササイズを活用したワークショップ (体験学習) を行う。ワークショップのまとめの中で、将来ひきこもりや不適応状態になったときの対処として、相談機関の紹介を行う。

《所要時間: 110 分》

- ① イントロダクション (10 分)
- ② エクササイズ: グループに分かれて、LGT+C の制作を行う (休憩込で 60 分)
- ③ シェアリング: グループ内で一人ずつ順番に作品の紹介を行う (15 分)
- ④ まとめ、相談機関の紹介 (15 分)
- ⑤ 感想文記入 (10 分)

【実施】

① 市内B中学校

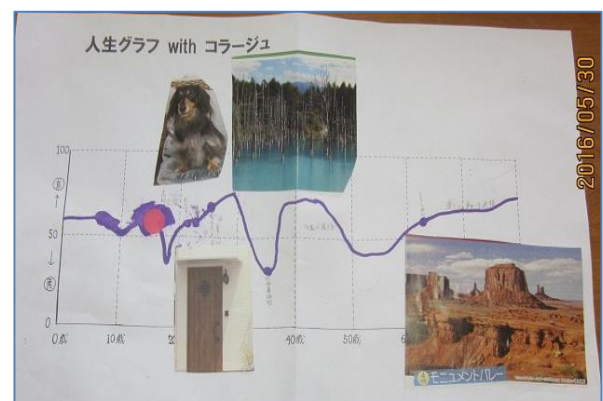
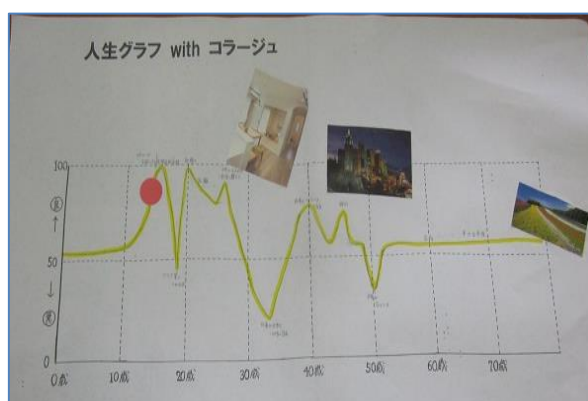
日 時 : 平成 28 年 5 月 30 日 (月)

対 象 者 : 3 年生

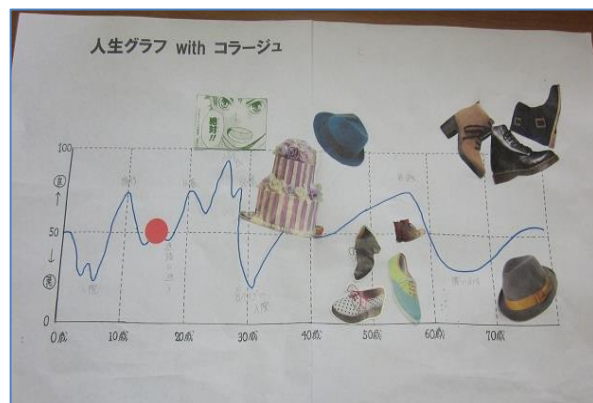
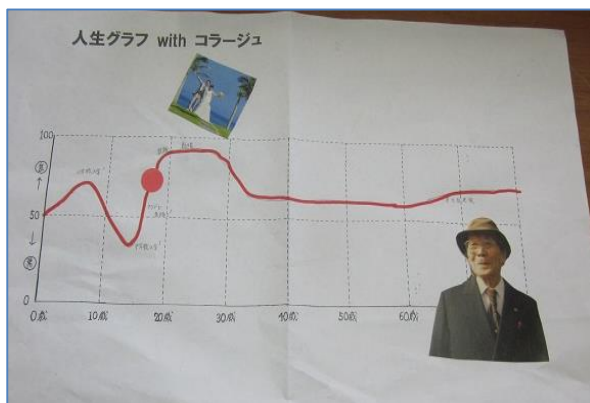
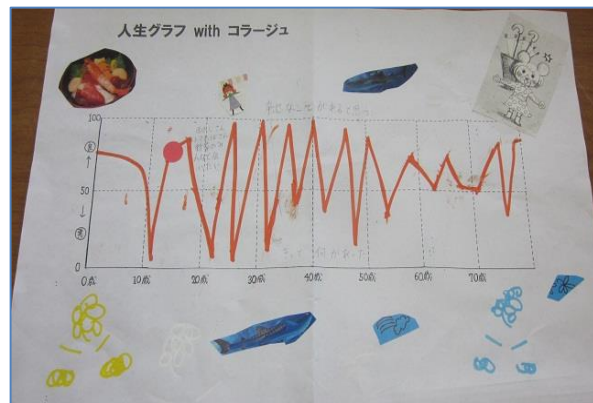
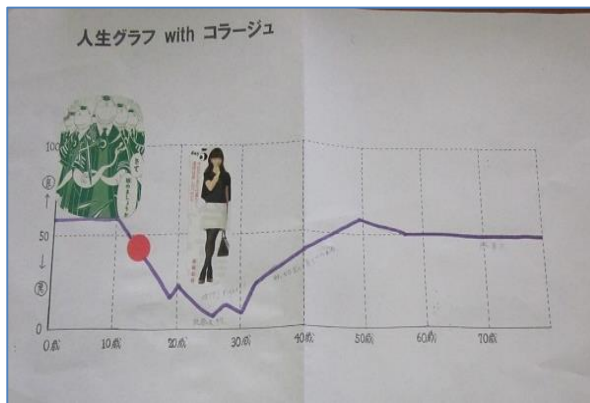
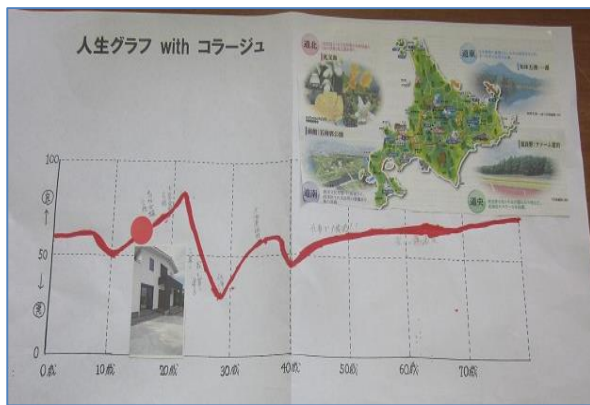
参 加 者 : 19 名 (うち 1 名は途中退席)

ス タ ッ フ : 学校職員 (2 名)、ひきこもり検討委員 (2 名)、ひきこもり相談窓口 (2 名)

《生徒の作品》



Ⅲ-2. 支援の報告



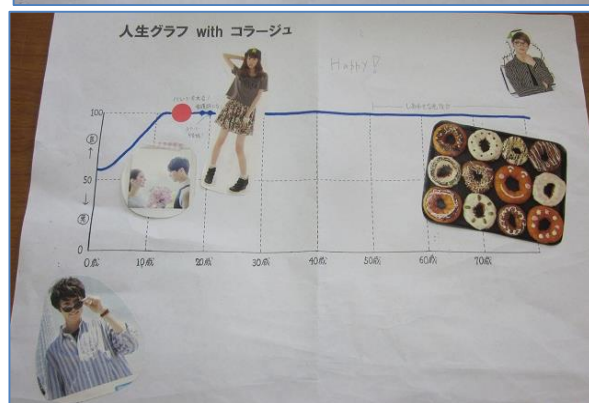
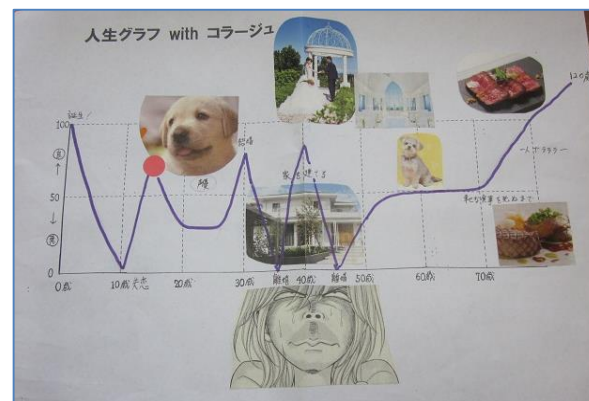
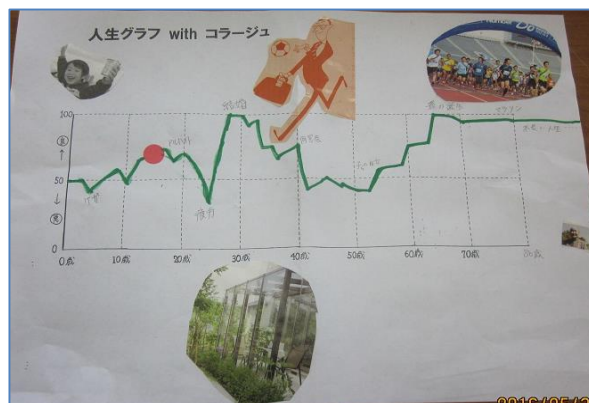


表1 参加生徒の感想文（※ IDは、昨年度からの通し番号、原文のまま）

ID25 自分の人生をグラフにし、コラージュしたのは初めてでした。普段先のことなんかあま

り考えないので良い経験ができたと思います。今日、考えた将来のことは実際にはかなうとは思わないけれど、なるべくそれに近い人生にしたいと思いました。自分以外の人はきちんと将来のことがわかりやすくまとめられていたし、コラージュもみんなが好きなようにはったりしていてとてもおしゃれでした。自分のは地味だったり将来のことがあまりハッキリしなかったりしなかったの自分はいきあたりばったりが一番だなあと思いました。だけど、普段考えたりしないようなことをしたのでとても面白かったです。高校を卒業すると社会人にもなったりするので、これからはじっくりと将来を考えていきたいと思いました。

ID26 今日のグループワークでこの先の自分について考えることができました。人生には苦しい、つらいときもあるけれど、その先には楽しいことがあるということが人生グラフを書いて分かったので、苦しい、つらいなどの困難を乗り越えて頑張っていきたいです。また今日の授業の最後で和歌山にもいろんな施設があることが分かったので、苦しいときつらいときに活用したいと思いました。「人生グラフ with コラージュ」を作成するときに今後の人生について深く考えることができたのでよかったです。

ID27 今日は、グループワークをして、いろんなことを学びました。人生グラフ with コラージュを作成するときはみんなでわいわいしながら作成してとても楽しかったです。自分の将来を考えてみると、いろいろなことがわかったのでよかったです。このグラフを考えていてこれからもがんばっていこうと思いました。仕事の大変さや、いろいろな困難も乗り越えていかなければならないだなあと思いました。人生グラフを作成してとてもよかったと思いました。今まで自分の人生などを考えていなかったの、今この授業をして、自分の人生についてよくわかったきがしました。今はこのグループワーク、人生グラフ with コラージュの作成をしてよい授業をして、よいことを学んだと思いました。

ID28 今まであまり考えなかった具体的な将来について、人生グラフやコラージュをしてちょっとだけ将来について考えることができました。自分の好きなもの、自分が歩みたい将来を班の人に知ってもらえて良かったし、みんなが将来どんな事がしたいかも分かって興味深かったです。コラージュするときにはどんな写真をはりたいか考えて探して、切り取るという作業はとても楽しかったです。一人一人個性があって、いろんな人生があるんだろうなと将来が少し楽しみになりました。全員が自分の思うような将来になると良いなと思うし、もし違ったとしても自分の人生を楽しめる大人になりたいと思いました。自分の思う事を周りに伝えるという事はすごく苦手だったけど、伝える事で自分を分かってもらえるような気がしたのは新たな発見でした。今日学んだ事をこれから生かして自分なりの人生を造っていききたいと思います。

ID29 自分の将来をコラージュで表しました。まだ、はっきりしない事もたくさんあるけど、今日、作ったコラージュの様な将来になったらいいなと思いました。人生はいい事ばかりではなく、イヤな事、悲しい事、もたくさんあると思います。でも、それが自分の人生だから、自分は自分で、他の人に何を言われても、自分らしく、未来に向かっていきたいです。コラージュ作りは初めてで、どんな事をするのかとても楽しみでした。自分の将来を線で表し、うれしいときは上向き、悲しいとき、つらい時を下向きのグラフになりました。たくさん用意してくれた雑誌から、自分の好きな事、物を切り取ってはりました。よく分からないコラージュになったけど、とても楽しかったし、自分の将来について初めて考えることができました。今日、考えたことが実現できても、できなくても、私は自分らしい道を歩んでいきたいです。そして、老後をむかえたとき、「いい人生だった」と思えるような、未来を自分の力でつくっていききたいです。

ID30 グループでの人たちのやりたいことや夢などが分かって、とても面白かった。細かく

書いている人から、大ざっぱに書いている人もいて、しっかりと未来のことが想像できていてすごいなあと思いました。また、写真選びなど色々とみんなのことを新しく知ったり、最確認することができて楽しかったです。自分は今のことしかまだ分からず、未来のことは何一つ決めたり、まだ目標にしていることがなかったの、この機会は、自分を一から見直せることができる良い経験でした。グラフ通りに行かないと思うけど、できるだけ、+の気持ちが多い人生になるように今からがんばっていきたいと思いました。

ID31 普段はあまり考えない自分の未来の見て苦しいことより楽しいことの方が多かったの、でこれからの人生頑張ろうと思いました。できれば予想通りの人生を送りたいです。あっても入院や病気はなるべくしたくないです。こんな未来図をたててしまったのでひきこもるわけにはいきません！なのでひきこもり相談窓口のお世話にはならないかなと思いました。

ID32 自分の未来について普段からあまり考えないので、どんな道を進むかを考えるのが少しむずかしかったです。コラージュ作りとても楽しかったです。自分の思い描いたとおりの未来にはならないけど、たまには考えてみるのも良い事だと思いました。

ID33 コラージュ作りで班の人たちの発表が1人1人ちがっていたのしかったです。自分の人生の先を決めていくのは、むずかしかったです。またやりたいなと思いました。

ID34 コラージュ作りが楽しかったです！自分の好きな写真を切り取ってはれたのが嬉しかったし楽しかったです！また、自分の人生を振り返れたし自分の未来を考えれたのが面白かったです！〇〇は、いつでもハイテンションでいたい人なんでコラージュがほぼ100になっていました！

ID35 今日は、みんなと一緒に、自分でコラージュした人生グラフを見せあいっこして楽しかったです。みんなの意外な一面が見えて、嬉しかったし、びっくりしました。しっかり将来のことをみんなは書いていたので、すごいなあと感心しました。それぞれのグラフがあって、その人らしいなあと思いました。なかには、びっくりするほど現実的な子が居て、驚きました。それぞれのグラフは、面白かったです。発表する時も、みんなきらきらして楽しそうに話していたので聞いている自分も、楽しかったし、面白かったです。みんな幸せそうだったので、将来、みんなが幸せであればいいなあと思いました。

ID36 グラフを作るのがとても楽しかったです。実際に自分の未来をかいいて表してみると、自分は将来の夢などがちゃんときまっていなくてあらためて思いました。今すぐに将来の夢などを決めるのは無理なのでとりあえず行きたい高校行けるように勉強しようと思いました。他の人の表は老後はしゅみを楽しんだり、40代ぐらいにつかれたりハッピー度が下がったり上がったりしていました。どれもけっきょくハッピーになっていたの、で楽しそうでした。

ID37 グラフに書き出してみると過去の自分がどうだったとか未来の自分はこうなっていてほしいとかいろいろ出てきました。苦しかったこともグラフを見ればすぐに楽しいことに変わっていたりしたので、苦しいことばかりじゃないんだなと思い気持ちが楽になりました。友達のグラフを見ても、ほとんどが楽しいことばかりで、いいなと思いました。言葉や心の中で思っているより、実際に書き出してみる方が自分のことを改めて知れる感じがするのでいいなと思いました。グラフに書いたことが実現することは難しいかもしれないけど目標がある方がきつといいので目標に向かって進んでいきたいです。このグループワークはとてもいいと思いました。

ID38 自分の過去を振り返ることができ、未来を想像することもできた。未来の自分を想像

Ⅲ－２．支援の報告

するとき、普段は、少し不安も抱えていた。しかし、今回のグループワークで、自分の人生により自信がつき、やりたいこと、成しとげたいことなどが浮かんできた。50 歳、60 歳の自分を考えることは少し難しかったが、新しい仕事や行事にチャレンジしたり、孫ができたりして楽しく過ごすことができることを考えると、老後の人生も楽しくなってくると思う。自分の未来を考えることができ、とても楽しい授業だった。

ID39 コラージュにするものを探すのがとても楽しかったです。今まで生きてきた人生、これから生きていく人生、思い出すのも想像するのもワクワクしました。私は全てが 50 以上で 100 までをグラフに表しました。でもその中でも悲しかったこと、苦しかったことなど、それぞれたくさんありました。人生はうれしいことばかりでもなく、悲しいことばかりでもないのだと思いました。それぞれのグラフも独特で、離婚までも予定にある人もあり、みんながみんな違っておもしろかったです。具体的に〇〇へ旅行へ行くや〇〇を始めるなど、やりたいこともたくさんグラフに組み込まれていました。結婚や子どもなどの写真、言葉以外にも、好きな芸能人の写真など、個性が目立ちました。このグラフ通りにはいかないかもしれないけれど、今日の人生のグラフを 1 つの目標にできればいいなと思いました。

ID40 みんなが将来したいことやなりたいことが分かり、自分がどのようになりたいかが改めて確認できた。また、この人生設計をしてこの目標どうりにできるかななどを試していきたいです。

ID41 自分の将来についてそんなにじっくりと考えたことがなかったので、すごく良い経験でした。自分の将来だけでなく、班の人がどう思っているか、どのように住ごすか、みんな、いろいろな意見で、聞いていて楽しかったです。将来したい出来事の写真を見つけるのはすごたいへんでした。みんなその出来事にあった写真を見つけ出して貼っていたので、すごかったです。写真のはり方や選び方も個性がいろいろでおもしろかったです。幸せな人生を送れるようにしたいです！

ID42 初めてコラージュを作ったので最初は何をすれば困乱したけど、今回の事で未来の自分像や昔の事もいろいろと考えられました。班のみんなもそれぞれの人生グラフが書かれていたので、とてもおもしろく人生のことも知れました。それ通りの人生になるとはかぎらないけれど、とても楽しく改めて自分を見つめなおせたのでよかったです。これから 120 歳をめざしてがんばって生きます！！そして離婚をしないように素敵な彼氏 kareshi を見つけたいでーす！！



② 市内 C 中学校

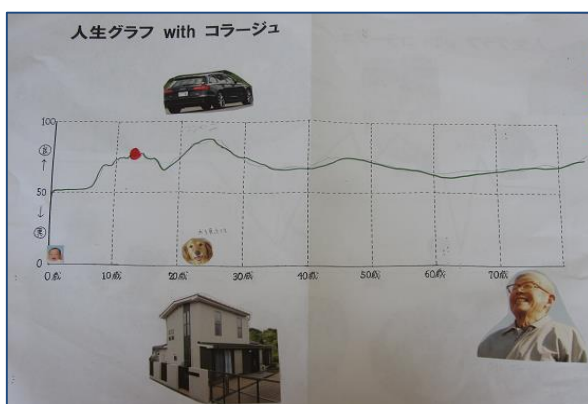
日 時：平成 28 年 7 月 19 日(火)

対 象 者：2 年生

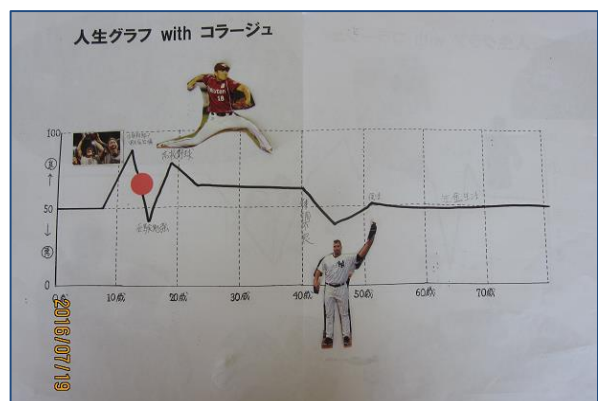
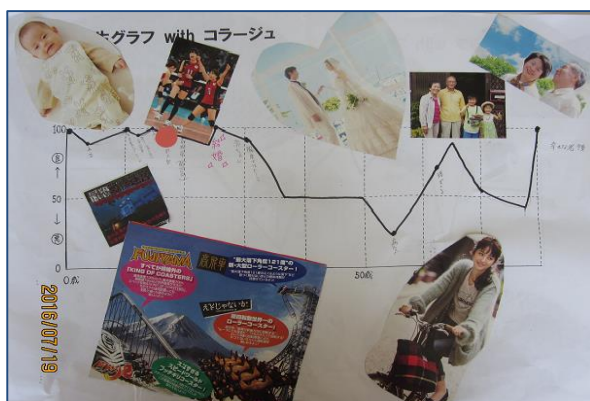
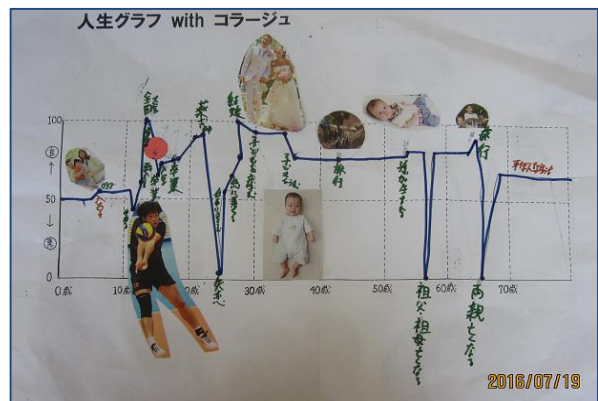
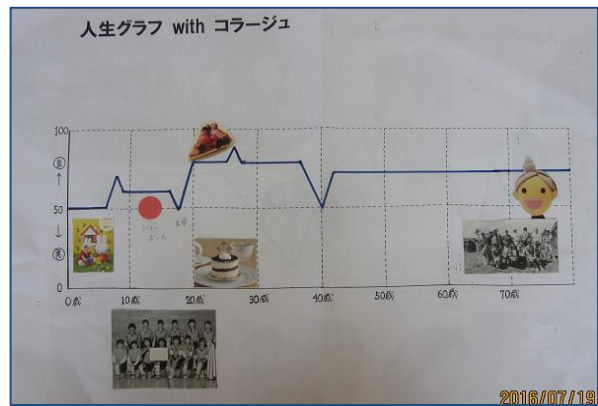
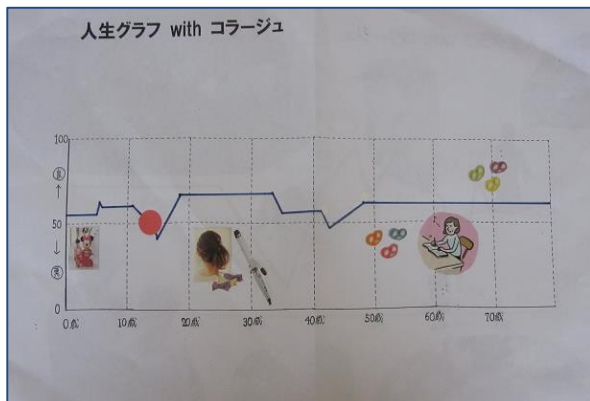
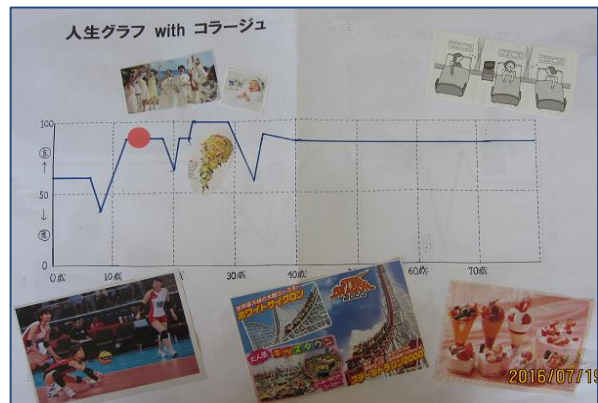
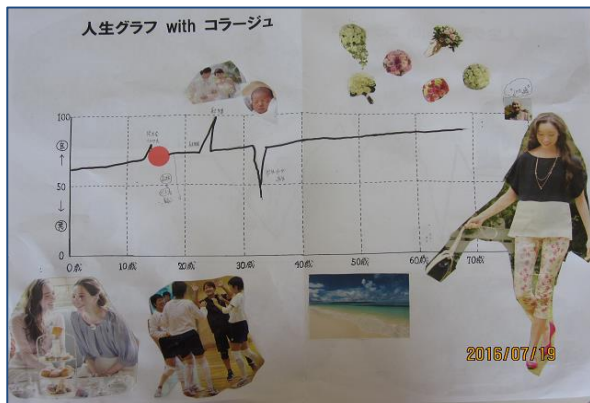
参 加 者：40 名

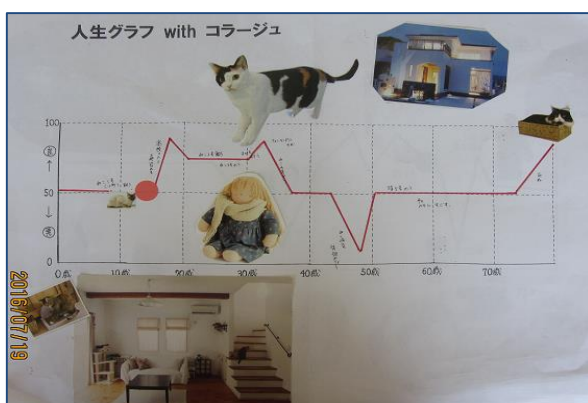
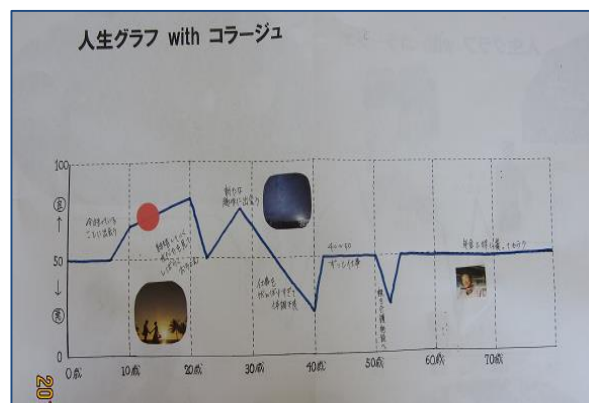
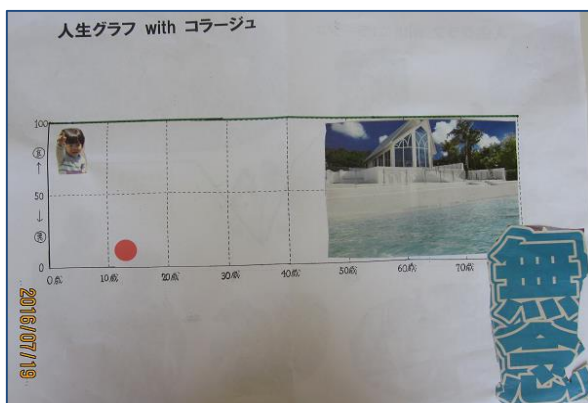
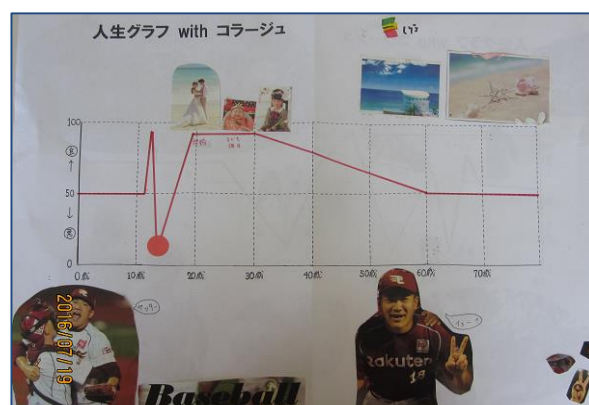
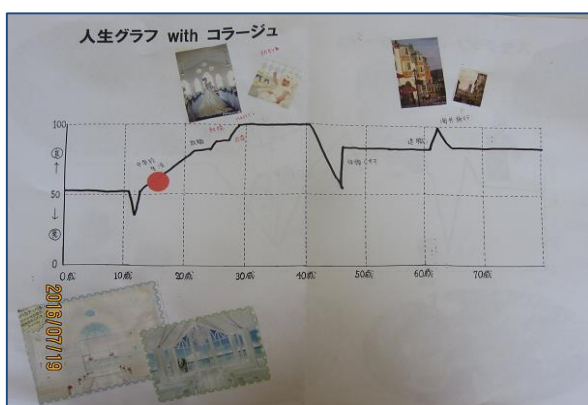
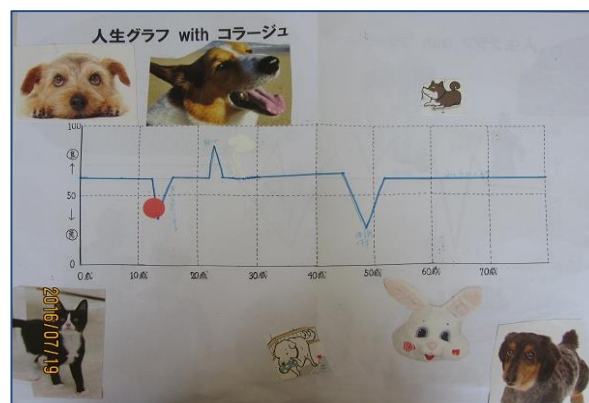
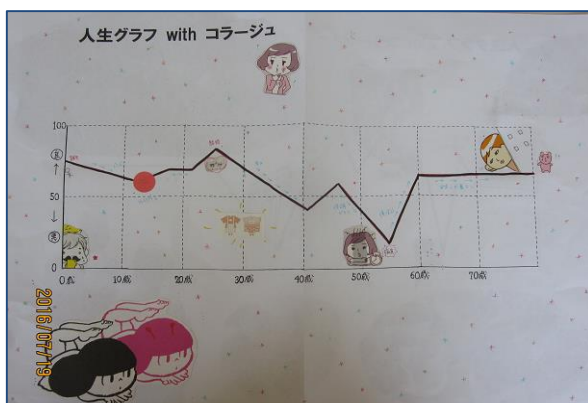
ス タ ッ フ：学校職員(4 名)、ひきこもり検討委員(4 名)、ひきこもり相談窓口(2 名)

《生徒の作品》



Ⅲ－2. 支援の報告





Ⅲ-2. 支援の報告

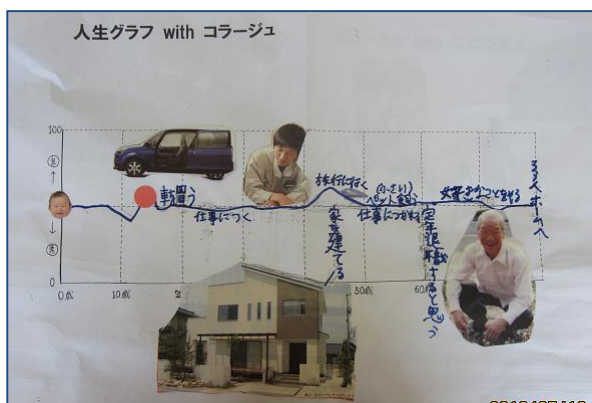
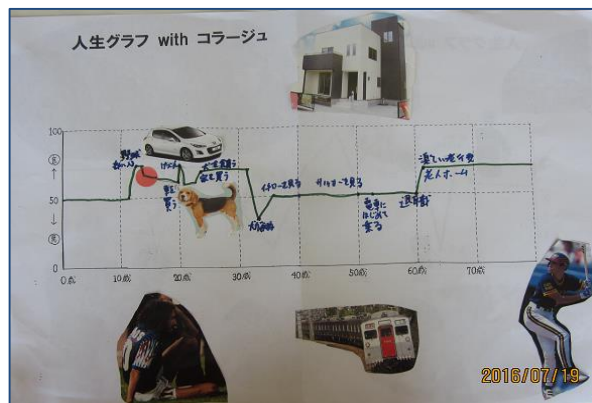
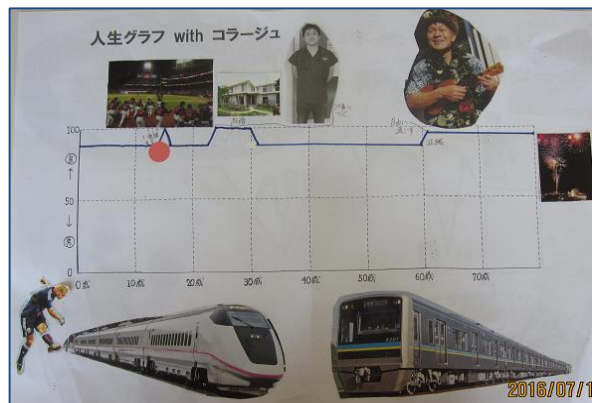
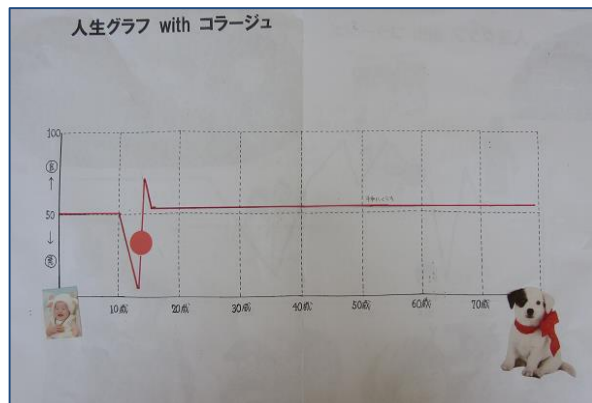
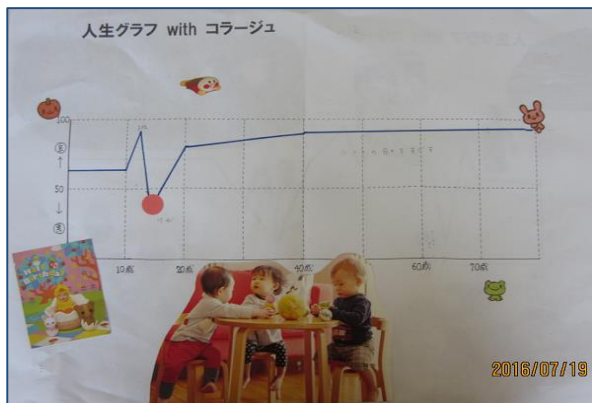


表 1 参加生徒の感想文（※ IDは、昨年度からの通し番号、原文のまま）

ID43 普段あまりこういう話をきくことがないので、ゆっくりときくことが出来てよかったです。自分の人生を1本の線で表してみても、今は色々あるけど、楽しいことは絶対にあるはずなので、弱気にならず、がんばりたいです。みんな表を書いているときは笑っていて、すごかったのしそでした。

ID44 今日は、人生のカラーージュをしました。最初は、できるか心配だったけど、やってみると楽しかったです。ほとんど、人生の中で良いことばかりの人、あまり良いことがない人など、さまざまな人がいました。でも、作っているときは、みんな笑顔で、できていました。あと、将来のことも考えました。何があるか分からないけど、良いことがあればいいなと思います。将来良いことがあるように、今、がんばっていきたいと思いました。

ID45 一番、楽しかったのは、人生 with カラーージュです。私の希望がたくさんつまった人生を、描いて、貼れたので、良かったです。人生には、つらく感じるものの後に、幸せがくるという風におっしゃっていました。たしかにそうだとも思ったけど、逆に、幸福のあとに不幸がくることもあるんじゃないかな。と思いました。けど、つらいものの後に、幸せがあると思っていたほうが、楽なのだと思います。人間という生き物は、めんどくさいと思いました。

ID46 僕は、今日のグループワークで、色々な人がいて、その人、1人1人には、将来の楽しみがたくさんあると、改めて分かりました。もし困ったこと、悲しいことがあったら、僕は、友達や色々な人に相談して気持ちを楽にしたいです。

ID47 今日は、自分の今までの目標を形にできていい経験になりました。今までいまいち考えていなかった所も少しあり形があやふやだった所もあったのでこれを未来に実げんできるようにしっかりと努力したいです。

ID48 今まで将来についてあんまり考えていなかったけど人生グラフ with カラーージュをしたら将来を明るく考えることができた。すごく楽しかった。

ID49 今日はこのキャリア学習をしてをして、いまはまだ、13 さいだけど将来の標目みたいなものとかを考えながらグラフとかつくっかいくから、しょうらいもあのようにしていきたいです。

ID50 今回のグループワークでは、すごくおもしろかったです。自分の過去や現在は、将来に役立っていくのだと思います。僕は、相談してくれる人がたくさんいるのが分かりました。

ID51 今回のグループワークでやったことは、いろいろなことを学べたと思います。そして仲間とも協力できたところもあったのでよかったです。これを通じて、自分の将来のことをもっと考えていきたいと思いました。自分のグラフをみても、楽しいことがいっぱいあったので、とても楽しみです。また、「心理」についても、たくさん知ったところもありました。自分が困っていても、周りにはたくさんの支えてくれる人がいることを忘れず、いきたいと思います。

ID52 今回、自分の人生の過去を思い出してみたり、未来を考えたりして、過去は楽しいこともあれば、しんどいこと・悲しいことがあったりしたけど、この嫌？な過去は今考えてみれば、とっても良い経験だなと思うし面白いなとも思います。逆に、未来は自分がしてみたいことをもってしていきたいです。そして、自分の人生を楽しみたいです。

ID53 今日、考えて人生は色々なことがあると思いました。つらいこともあるけど将来のためだと思って色々なことをがんばらないといけないと思いました。今日考えたグラフより、良い人生になるように経験を積んでいきたいと思います。

ID54 今日は、キャリア学習をしていただいた人の話をきいて思ったことはひきこもりの人のことを考えていろんな人が努力しているのがわかりました。しんどいとかはない人はこの学校の人たちは多いと思います。「ひなたの森」はしらなかったけどこれからは友達とかにこまっている人がいたら知らせてあげたいです。

ID55 「人生グラフ with コラージュ」をして自分の未来がとても楽しみになりました。あのグラフ通りにいくとは思っていません。いろんな壁が出てくると思います。でも今、自分は何をしたいのか、どんな人生にしたいのか分かったような気がします。友達のグラフを見るといろんなことが書いていて、見たり聞いたりするのがすごく楽しかったです。グループワークをしてたくさんの事が知れたり、自分の思っていることがよく分かったのでうれしかったです。

ID56 私は未来について何も考えていません。他の子とは少し違った趣味を持っており、あまり理解してくれるような人がいません。親、妹、2, 3人の友達だけが、今の私を知っています。何を書きたいのか、自分でも分かりませんが、改めて、自分の将来について考えることができ、本当に良かったと思っています。将来の自分が楽しみです。

ID57 今日のキャリアデザインの授業は、自分の人生をくわしく考えました。初めは、むずかしかったけど、だんだんと考えられるようになってきて、自分の人生を初めて、深く考えました。ひきこもりの人がいて、その人を支援する人もいて、施設もあるということも知れました。まだ、知らないことも、今日の授業で知れました。とても、学べたと思います。

ID58 今日のグループワークで、なやみなどあったらすぐに、みのまわりの人にそうだししようと思った。

ID59 今日は、『人生グラフ with コラージュ』をして、自分の人生を予想するのは、初めてだったけど、楽しかったです。またなにかあったら、いろんなところに相談してみようかなと思いました。これからが楽しみです。

ID60 今日、1番楽しかったのは、グラフを作ったことです。これからどうなるかわからないのに書くのはむずかしかったけれど、かみを切るのが楽しかったです。何かあったら相談してみようかなと思いました。いろんな施設があるということを知れてよかったです。これからの人生、楽しめたらいいなと思いました。

ID61 今日は、「人生グラフ with コラージュ」というものをしました。人生の生き方を考えて、やっぱり人生は大切だし、1度しかないから、こうかいしないようにしていきたいと思いました。未来は何があるか分からないけど、楽しく生きていこうと思いました。なやむことはたくさんあると思いますが、これからも、がんばっていこうと思いました。とても楽しかったです。

ID62 今日は今まであまりすることのない作業が多くて、とても楽しかったです。またこんなけいけんができるといいなと思いました。

ID63 今日のグループワークで、いままでの人生やこれからの人生についての目標や計画を立てることができました。今日の計画をまもれるような人になっていくための努力をできる

ようにしたいと思いました。今日は本当にありがとうございました。

ID64 今日、グループワークをして、少し自分に自しんがついてきました。これからどんなにいきていきたいか、をかんがえていきたいと思いました。とても勉強になりました。今日、きていただきまして、ありがとうございました。

ID65 グループワークをする前とした後では、調査票の5の数がとてもふえたし、気持ちが、少し楽になった気がした。自分に目標があるんだと思った。

ID66 いろんなざっしがあつたけどたくさんはれた。かわいいざっしがあつた。発表するのが少しきんちょうしたけどがんばっていった。

ID67 今日の授業で自分の人生の見方が結構変わったので、びっくりしました。グループワークの前後でアンケートみたいなやつがゴロリと変わって、自分の人生を大切にしたいと思いました。

ID68 グループ前とグループ後の調査票を比べてみると、「7」の数がとても増えていたので、びっくりしました。相談したいこと、悩みなどがあれば、聞いてもらいたいなと思いました。

ID69 自分の過去を振り返ることや将来を想像することによって僕はイメージした将来に向かってどんどんつきすすんでいけると思いました。また、自分がひきこもりになったさいには、こんなにもまわりに相談できる相手がいることを知り「何かあつた時には助けてもらえる」そんな安心ができました。自分の将来を明るく想像することができれば自分の将来はその明るい方向に進んでいけたらいいなと思いました。

ID70 今日の授業を受けて、自分にはまだ人生に、目標も計画すらもないことが分かった。またこれから人生に目標や計画などを頭に思いたいと思います。

ID71 私は、今日のグループワークで人生グラフを書いてみて、やりたいことがどんなことだろうと思いかえすことがたくさんありました。友達のをしてみると、たくさんかいてあつたのですごいなあと思いました。人生グラフの通りやれないことが多いと思うけど人生グラフに近いようなことをやりたいです。

ID72 私は、人生のグラフを書いて楽しく住ごすことが多かったです。でも、つらいこともあるし、グラフどおりの人生はできないと思うけど、グラフに近づけるようにしていきたいです。ひきこもりの人たちを支援する人たちがいることをはじめてしりました。私は rurucoro というカフェにいつてみたいなと思いました。いける時があつたらいつてみたいです。こんな、きかいはめつたにないのてたのしめたしすごくいいきかいになりました。このことをわすれないようにしたいです。

ID73 私は、今日グループワークをする前までは、ふつうに毎日なんとなく生活をしていましたが、今日、グループワークをしてみて、また新しいいろんなことに気づけました。ありがとうございました。私はちゃんと目標を持っていることに気がつけたので、うれしかったです。グループワークをやっている時はとても楽しかったです。

ID74 人生グラフを作って、だんだんと自分のやりたいことが思いついて、将来楽しいことが待っていると考えると、すごくわくわくしました。将来のどんなことをしたいのかを考えること

Ⅲ－2. 支援の報告

によって、未来がより明るくなった気がします。今日は人生グラフを作って、楽しいことがふえたのでうれしかったです。

ID75 自分の未来のことを考えて、自分のことを考えるのはとても大事なことがわかりました。表にしていいたら、自分がそうできるようにしていくので人とかかわり方が上手になっていくと思います。ひなたの森などを紹介してもらったので、悩んでいる人がいた紹介したいです。

ID76 今日のグループワークの感想でとても班のみんなの発表がすむうずで早くおわれたこと、とても静かにできたこと、とてもみんな明るい人生を過ごそうとしてること。

ID77 僕は、今日の授業を受けて、悲しい・楽しい検算などが、これから行こる事に対応するためのものだと思います。悲しいことがあれば楽しいことがあって、楽しいことがあれば悲しいことがあると感じました。僕達は、検算があるからこそ、行こる事に対応できると思いました。

ID78 普段はあまりやらない過去から未来までのことを考えると言うことができてよかった。普段、雑誌を切ったりしないから、最初きいたときはびっくりした。

ID79 みんなで楽しみながらできてよかったです。自分の将来を考えるのが、とてもおもしろかったです。日常では、あまり考えていないことだったので、このような授業がとても新鮮に感じられました。

ID80 自分の将来について考えてグラフに書くことで自分の今の生き方や将来のためにどうすればよいのかを考える機会になったと思いました。自分のグラフを書くだけでなく、他の人のグラフを見ることで自分とは違った考え方や生き方もわかりました。

ID81 自分の未来を考えることで、不安もあるけれど、楽しいこともあるのだなと思いました。悩みがあるときは自分だけで悩むのではなく、人に頼ってみようと思いました。自分の人生を価値のある人生にしたいと思いました。

ID82 今日のグループワークをして、人生グラフ with コラージュの未来を考えると、自分のしたいことがはっきりしていたから、その考えにむかってがんばっていきたいと思いました。今できることをしっかりして将来最悪の方向じゃなく、最高の人生にしたいです。



③ 市内D中学校

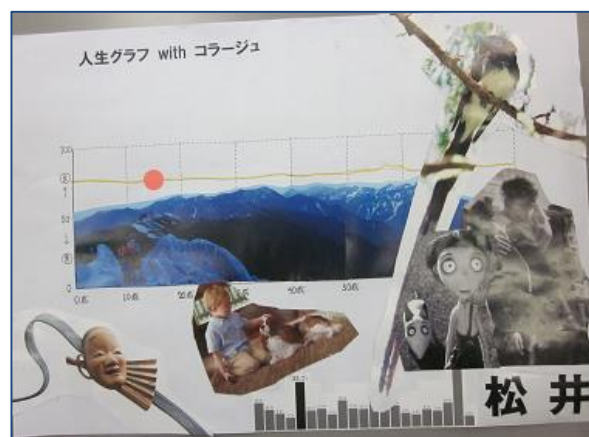
日 時：平成28年12月12日(火)

対 象 者：3年生

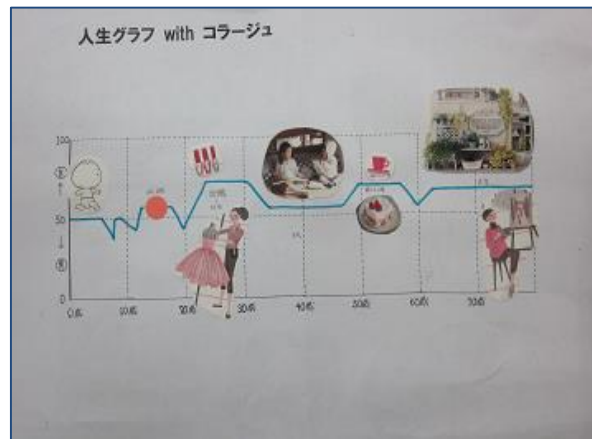
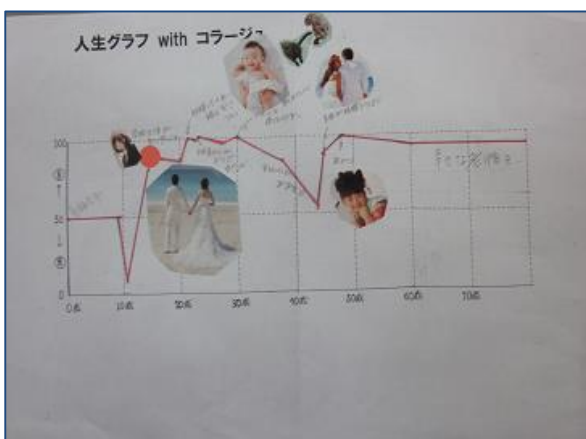
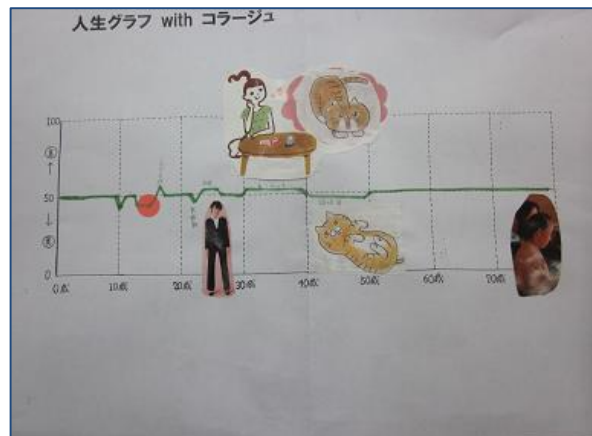
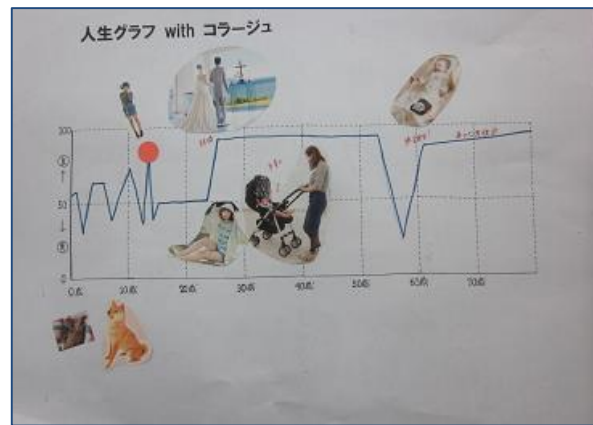
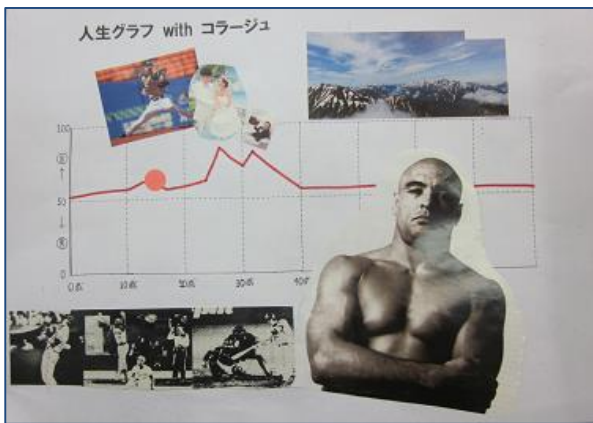
参 加 者：19名

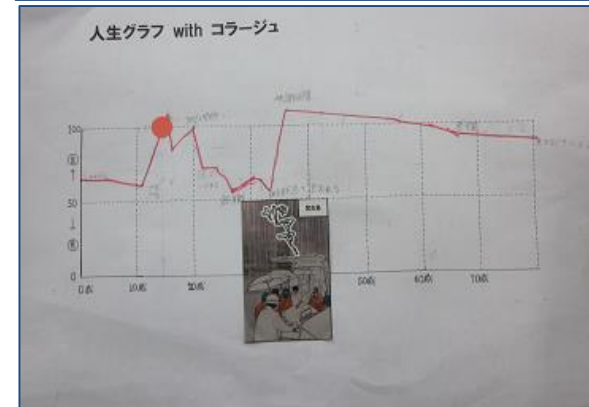
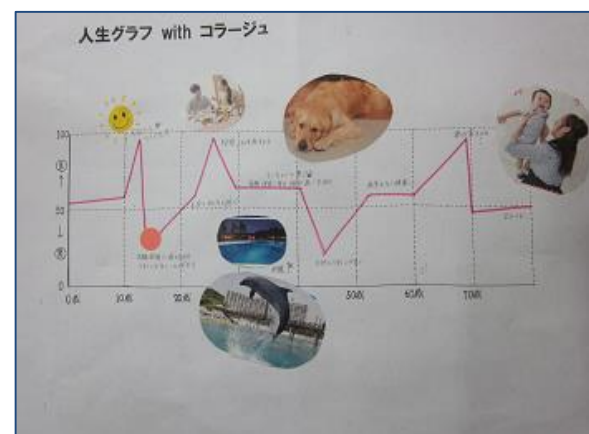
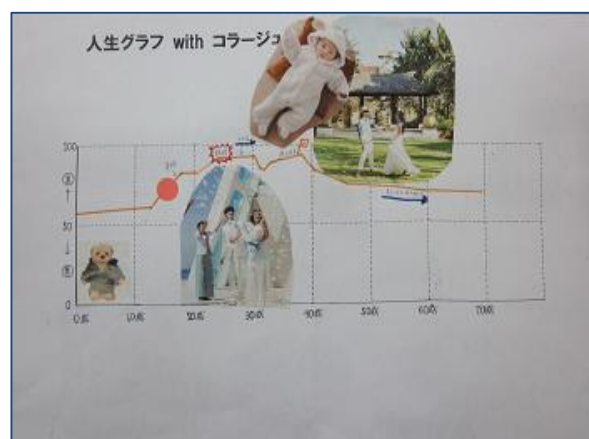
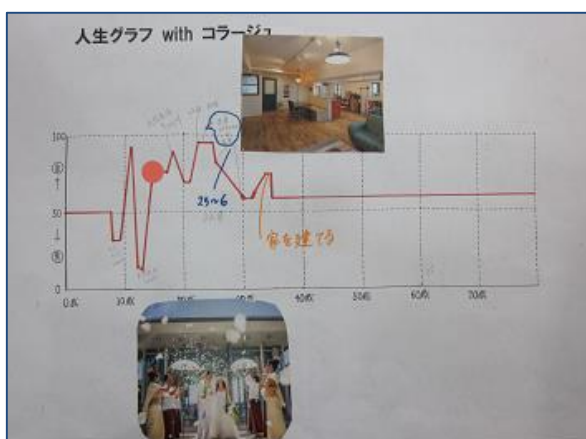
ス タ ッ フ：学校職員(5名)、ひきこもり検討委員(3名)、ひきこもり相談窓口(2名)

《生徒の作品》



Ⅲ－2. 支援の報告





Ⅲ－２. 支援の報告

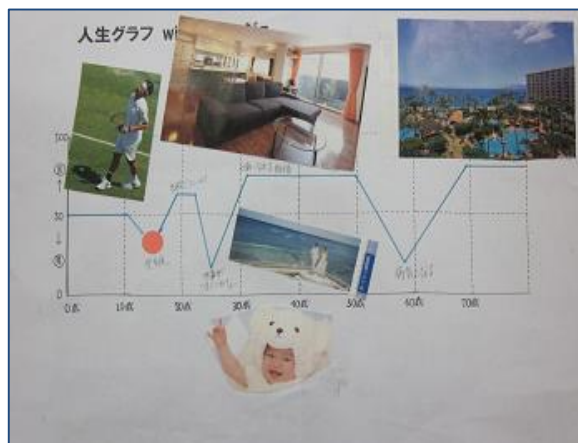


表 1 参加生徒の感想文（※ IDは、昨年度からの通し番号、原文のまま）

ID83 普段はあまり考えないけど自分が将来なにをしたいかだいたい決めていた。悪いときもあったけど上がっていた。悪いときもあるけどそれを乗り越えたいと思った。70 歳ぐらいに近づいていくと班のみんなはほとんどなにもなく平だった。

ID84 1 つの物事に対する感情の起伏の大きさは人それぞれだと思った。私は 0 になるほど悪くなることも 100 になるほど良いことも年単位では書けないと思った。ポジティブに物事をとらえたいと思った。

ID85 みんなの考え方はそれぞれ違うと思った。

ID86 自分の人生について考えてみるといういい機会になったと思う。過去の自分がどのようなものだったなどを思い出せることができたのでよかった。ぼくたちのまわりにはたくさんの支援があるんだと思った。安心できた気がした。自分とみんなの人生の生き方を比べて誰一人として同じものがなく、一人一人個性があって楽しかったと思いました。

ID87 みんなそれぞれ違う人生を描いていておもしろいと思った。時々、つらいなと思うときがあるけど、今回コラージュを作ってみて、まだまだ人生はここからで色々なことがあるからもっと前を向き、未来を見て生きていきたいと思った。今、進路ですごく悩んでいる。でも、たった一度の人生だから怖がらず自分のやりたいことにチャレンジしてみようと思えた。

ID88 楽しかったです。

- ID89 みんなで楽しく作品を作ることができてよかった。また自分の未来について考えたいと思った。みんなで交流することができてよかった。
- ID90 ひきこもり相談窓口の人たちは友達関係などで困っている人たちを助けるということがすごいと思いました。今日、授業を通して、友達との仲がもっと今以上に良くなったなと思いました。自分の過去を振り返り、今幸せか、そして未来を考えて人生グラフを作るのが楽しかったです。みんなで協力し合ったりできてよかったです。みんなの人生グラフを知れてよかったなと思いました。
- ID91 人生グラフをつくってみると案外平端になりました。良くもなく悪くもない人生が一番落ちついて生きられるかなと思いました。人生について考えるいい勉強になってよかったです。
- ID92 今日はグループで自分の作品を他の人と比較して、「なるほど。」と思うことがたくさんありました。とても楽しく色々なことを学べて良かったと思いました。
- ID93 みんなと意見を交せてとてもいい交流になったと思った。
- ID94 みんな楽しそうでした。未来なんてわからないのに、みんな自由にかいていてすごいと思いました。
- ID95 自分でグラフをつくって、やっぱり幸せな人生がいいなと思った。大切な人を見つけて、幸せにすごして、良い人生を送りたい。みんなのグラフをみて、ほとんどの人は幸せな人生をグラフで表していて、みんなと同じ気持ちで安心しました。
- ID96 今日のグループワークで、自分の将来について考えるよい機会だと思った。自分の将来はどうなるか分からないけど、作品に近い人生に向けて努力していきたい。
- ID97 グラフを書く前よりグラフを書いた後の方が気持ちが良くなった。みんなのグラフをみると、まったく同じものはなかったと思いました。
- ID98 自分が望んでいる未来を考えて、グラフに書くのは、楽しいなあとおもいながら書いていました。自分が書いたのは現実になればいいなと思っている部分もあるし、山あり谷ありでも「人生」だなと思います。
- ID99 田辺市に引き込みりや社会復帰できない人のための想談所のような場があるんだということを知れた。グループワークをやって自分の人生について考えることができた。みんなやって楽しかった。
- ID100 今日自分の将来の事や、どんな生活をむかえるかやとても色々な事がとてもわかった。みんなのを見て、全然違うなあと思いました。みんなは、赤ちゃんの事をかいていて、ああそうなんだなあと思いました。赤ちゃんがほしんだなあとも思いました。
- ID101 ※記述なし





「人生グラフ with コラージュ」を用いたグループワークの調査結果Ⅲ

東 知幸(徳島文理大学)

2016.6.6

目的

「人生グラフ with コラージュ」を用いたグループワーク(GW)が参加生徒に与えた心理的効果を調査する。

方法

日時 2016 年 5 月 30 日(月) 5、6 限(110 分)

GW 参加者 中学 3 年生 19 名(うち 1 名途中退席)、全員から調査協力が得られた。

スタッフ 6 名(ひきこもり検討委員 2 名、ひきこもり相談窓口担当者 2 名、学級担任 1 名、養護教諭 1 名)

手続き ①GW の趣旨説明(5 分)、②調査の趣旨説明およびアイデンティティ(≒自分らしさ

などに関する感覚)を測定する MEIS テスト⁽¹⁾の実施(5分)、③「人生グラフ with コラージュ」制作方法の説明(5分)、④作品の制作(60分)、⑤作品の発表(15分)、⑥まとめと支援機関の紹介(10分)、⑦MEIS テストと感想文の実施(10分)

分析方法 ①感想文の分析、②GW 前後に実施された MEIS テストの得点について対応のある t 検定(両側検定)で分析した。有意水準は 5%とした。

結果と考察

①感想文の分析

参加生徒の感想文を表 3 に示した。ほとんどの生徒の感想文の中に「楽しかった」あるいは「面白かった」という記述があり、「面白くなかった」などの否定的な記述が見られなかったことから、ほとんどの生徒は楽しみながら GW に取り組んでいたと考えられる。

『いろいろな人生があるんだろうと将来が少し楽しみになりました』(ID28)、『自分の未来の見て苦しいことより楽しいことの方が多かったのでこれからの人生頑張ろうと思いました』(ID31)という記述などから、この GW は生徒たちの将来への期待感を高めたり、やる気を高めるなどの効果があったと考えられる。

また、『とても楽しく改めて自分を見つめなおせたのでよかったです』(ID42)、『みんなの意外な一面が見えて、嬉しかったし、びっくりしました』(ID35)、『自分は自分で、他の人に何を言われても、自分らしく、未来に向かっていきたいです』(ID29)という記述などから、この GW によって生徒たちは自己理解や他者理解を深め、そして自分らしく生きていくことへの自信を強めることができたと考えられる。

さらに、『和歌山にもいろんな施設があることが分かったので、苦しいとき、つらいときに活用したいと思いました』(ID26)という記述などから、この GW は生徒たちが困ったときに相談機関を利用する意欲を高めることに役立ったと考えられる。

②MEIS テストの分析

GW 前後の MEIS テストの結果を図 3 に示した。GW 前の MEIS 得点の平均値は 95.61 点であったが、GW 後には 100.61 点へと有意に上昇しており($t(17) = 2.34, p = 0.032$, 効果量 Glass' s $\Delta = 0.25$)、この GW は生徒たちのアイデンティティ(≒自分らしさに関する感覚)を発展させた、つまり心理的な成長を促したことが推測される。

「人生グラフ with コラージュ」を用いたグループワークの調査結果Ⅳ

東 知幸(徳島文理大学)

2016.8.2

目的

「人生グラフ with コラージュ」を用いたグループワーク(GW)が参加生徒に与えた心理的効果を調査する。

方法

日時 2016 年 7 月 19 日(火) 3、4 限(110 分)

GW 参加者 中学 2 年生 40 名、全員から調査協力が得られた。

スタッフ 9 名(ひきこもり検討委員 4 名、ひきこもり相談窓口担当者 2 名、中学校教員 4 名)

手続き ①GW の趣旨説明(5 分)、②調査の趣旨説明および生きがい感を測定する PIL テスト⁽²⁾の実施(5 分)、③「人生グラフ with コラージュ」制作方法の説明(5 分)、④作品の

制作(60分)、⑤作品の発表(15分)、⑥まとめと支援機関の紹介(10分)、⑦PILテストと感想文の実施(10分)

分析方法 ①感想文の分析、②GW前後に実施されたPILテストの得点について対応のある t 検定(両側検定)で分析した。有意水準は5%とした。

結果と考察

①感想文の分析

参加生徒の感想文を表4に示した。『みんな表を書いているときは笑っていて、すごくてのしそうでした』(ID43)、『友達のグラフを見るといろんなことが書いていて、見たり聞いたりするのがすごく楽しかったです』(ID55)など、『楽しかった』あるいは『良かった』という記述が多いことから、多くの生徒は楽しみながらワークに参加していたと考えられる。

『初めは、むずかしかったけど、だんだんと考えられるようになってきて、自分の人生を初めて、深く考えました』(ID57)、『人生の生き方を考えて、やっぱり人生は大切だし、1度しかないから、こうかいしないようにしていきたいと思いました』(ID61)という記述などから、自分の将来の生き方を考えさせる機会となったこのGWはキャリア学習として役立ったと考えられる。

また、『人生グラフを作って、だんだんと自分のやりたいことが思いついて、将来楽しいことが待っていると考えると、すごくわくわくしました』(ID74)、『自分のしたいことがはっきりしていたから、その考えにむかってがんばっていきたくてと思いました』(ID82)という記述などから、このGWは将来への期待感を高め、目標の実現に向けてやる気を高めることに役立ったと考えられる。

さらに、『もし困ったこと、悲しいことがあったら、僕は、友達や色々な人に相談して気持ちを楽にしたいです』(ID46)、『何かあったら相談してみようかなと思いました。いろんな施設があるということを知れてよかったです』(ID60)という記述などから、困ったときに一人で抱え込まず他者に相談しようとする意識を高めたり、支援機関を利用する意欲を高めることに役立ったと考えられる。

②PILテストの分析

GW前後のPILテストの結果を図4に示した。GW前のPIL得点の平均値は95.78点であったが、GW後には100.86点へと有意に上昇しており($t(39) = 5.07, p < 0.001$, 効果量Glass's $\Delta = 0.27$)、このGWは生徒たちの生きがい感を高めたことが推測される。

「人生グラフ with コラージュ」を用いたグループワークの調査結果Ⅴ

東 知幸(徳島文理大学)

2016.12.20

目的

「人生グラフ with コラージュ」を用いたグループワーク(GW)が参加生徒に与えた心理的効果を調査する。

方法

日時 2016年12月12日(火) 5-6限(110分)

GW参加者 本宮中学校3年生19名、全員から調査協力が得られた。

スタッフ 10名(ひきこもり検討委員3名、相談窓口担当者2名、中学校教員5名)

手続き ①GWの趣旨説明(5分)、②調査の趣旨説明およびアイデンティティ(※自分らしく生きれているという感覚)を測定するMEISテスト(注2)の実施(5分)、③「人生グラフ with

コラージュ」制作方法の説明(5分)、④作品の制作(60分)、⑤作品の発表(15分)、⑥まとめと支援機関の紹介(10分)、⑦MEISテストと感想文の実施(10分)

分析方法 ①感想文の分析、②GW前後に実施されたMEISテストの得点について対応のある t 検定(両側検定)で分析した。有意水準は5%とした。

結果と考察

①感想文の分析

参加生徒の感想文を表5に示した。『自分の過去を振り返り、今幸せか、そして未来を考えて人生グラフを作るのが楽しかったです』(ID90)、『とても楽しく色々なことを学べて良かったと思いました』(ID92)など、『楽しかった』あるいは『良かった』という記述が多いことから、多くの生徒は楽しみながらワークに参加していたと考えられる。

『今、進路ですごく悩んでいる。でもたった一度の人生だから怖がらず自分のやりたいことにチャレンジしてみようと思えた』(ID87)、『自分の将来はどうなるか分からないけど、作品に近い人生に向けて努力していきたい』(ID96)という記述などから、このGWは将来の目標の実現に向けてやる気を高めたことが推測される。

また、『グループで自分の作品を他の人と比較して、「なるほど。」と思うことがたくさんありました』(ID92)、『一人一人個性があって楽しかった』(ID86)という記述などから、生徒たちは自分と他者の個性の違いに対する理解を深めることができたと考えられる。

さらに、『ぼくたちのまわりにはたくさんの支援があるんだと思った。安心できた気がした』(ID86)、『田辺市に引き込みりや社会復帰できない人のための想談所のような場があるんだということを知れた』(ID99)という記述などから、生徒たちは困ったときに相談できる場があることを知り、安心感を高めたと考えられる。

②MEISテストの分析

GW前後のMEISテストの結果を図5に示した。GW前のMEIS得点の平均値は94.05点であったが、GW後には101.26点へと有意に上昇しており($t(18) = 2.70$, $p = 0.015$, 効果量 Glass's $\Delta = 0.41$)、このGWは生徒たちのアイデンティティを高めた、つまり心理的成長をもたらしたことが推測される。

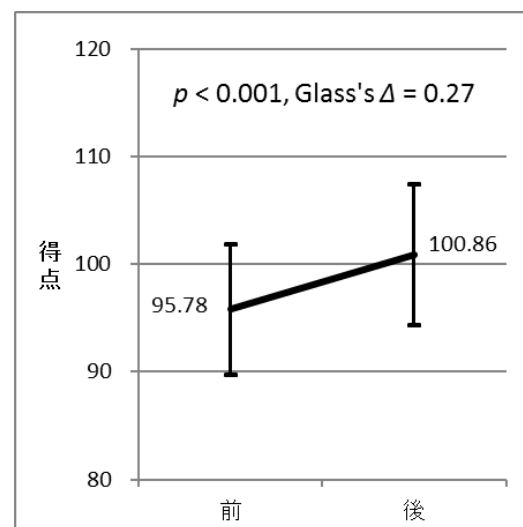
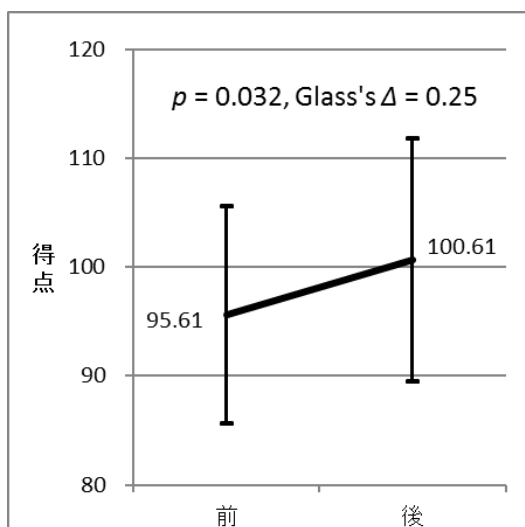


図3 MEIS 得点（アイデンティティ）
の変化（B 中学校 $N=18$ ）

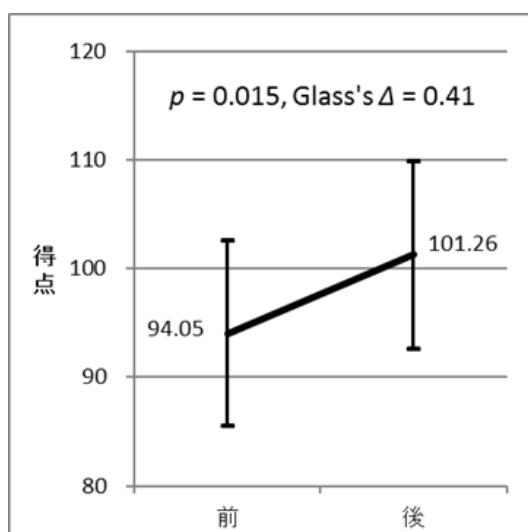


図4 PIL 得点（生きがい感）の変化
（D 中学校 $N=40$ ）

図5 MEIS 得点（アイデンティティ）
の変化（E 中学校 $N=19$ ）

引用文献

- (1) 谷冬彦（2001）．青年期における同一性の感覚の構造—多元的自我同一性尺度（MEIS）の作成．教育心理学研究，49，265-273．
- (2) PIL 研究会編・岡堂哲雄監修（1993）．生きがい—PIL テストつき．河出書房新社．

【まとめと今後の課題】

「人生グラフ with コラージュ」を活用した中学校での取り組み（ワーク）について感想文を用いた質的分析と心理尺度を用いた量的分析によって効果を検証した。まず、感想文の分析から、このワークは生徒にとって単に楽しい時間となっただけでなく、困ったときに相談機関を利用しようとする意識を高めるのに役立ったと考えられる。さらに、ワークをすることで将来への期待感がふくらみ、目標の実現に向けてやる気が高まったり、自己理解・他者理解が深まるなどさまざまな効果がもたらされることが示唆された。そして、心理尺度を用いた調査では、生きがい感の向上、アイデンティティの発展効果があることが示唆された。以上のことから、相談機関の周知と心理的成長というワークの目的は十分に果たすことができたといえる。今後より多くの学校でワークを導入してもらうために、このワークが有益であるというデータを積み重ねていく必要があるだろう。

（7） ひきこもり検討委員会 講義

『ハートツリーのあゆみ』

講 師：NPO法人ハートツリー顧問・理事 酒井 滋子 氏
日 時：平成 28 年 10 月 22 日（土）
参加者：29 人（事務局含む）



退職して 26 年、これまで、関わってきた事について、振り返ってみます。

【不登校生徒支援の始まり】

県内の教組組合は5つのブロックに分かれ、それぞれ相談活動がなされており、不登校の問題がでてきたころでした。田辺では教育会館に「田辺・西牟婁教育相談センター」が創設され退職教員が相談員として当番で入っていました。1991年に私も相談員に加えていただきました。

不登校の教育相談は、そこにくる家族の相談で、相談に来られるのはお母さんが多く、たんぽぽ親の会ができました。

小学校卒業後、中学校に行くことができていない人、小学校に行くことができていない人が対象で、学校に行けなくても2階の畳の部屋に来る自由教室ができました。何を持ってきてもいい、何をしてもいい、居場所と同じようなところで、県下でも注目されていました。

時代の流れとともに、組合の組織率が下がり、組合員が減っている中で相談員の日当を支払うことが難しくなってきました。

【「ひきこもり」支援へ】

「教育相談センター」の対象は本来小学校・中学校の学齢期の児童生徒ですので、はっきり線引きし、学齢期を守らないといけなくなり、高校に行けていない人は行けなくなりました。

中学校を卒業した人たちに卒業当時は関わってくださっていた先生方も日常の多忙さでなかなか連絡も取りにくくなり、まわりの人たちとの関わりが無いまま、本人も家族もひっそり時間をすごしている。こうして放っておかれる人は、私たちの地域で存在していないことになるのではないかと・・・。

教育会館は、中学校卒業したら利用できない。行き場所を探さないといけない。

自宅でしたことはあったが、そうもいかず、これらのことは教育の範疇だから「生涯学習」にかかわることだと考え、早速、市の「生涯学習課」に相談しました。齊藤環先生の「社会的ひきこもり—終わらない思春期—」を読んで関心のある課長で、女性ルームを週1回使えるようになりました。

好きな時に来室して、好きな時間を過ごし、連絡ノートに各々の思いを書き綴っていました。その中、利用日を週2回にという希望も受け入れていただけ、市民総合センターへの出入りにも慣れ、活動も落ち着いて楽しいものになりました。課長も時々様子を見に来てくださいました。

青年たちのサークル「HAPPY!!」を結成し、不登校の子をもつ親の会「たんぽぽの会」、社会福祉法人やおき福祉会、社会福祉法人ふたば福祉会も支援に加わっていただき心強いものでした。

みんなの中から、「自由に行けて、自分の物を持ち込めるゆっくりできる場所がほしい。」という声が出て、2000年に家探しを始めました。

ひきこもり支援は親の支援から始まるといわれますが、母親の方たちは協力してくれました、一緒によく動いてくれました。

活動にお金が必要で、資金稼ぎが大変でした。クッキーを焼いて、バザーや「あおい通りの朝市」で販売してお金を得ていました。

ひきこもりについては、なかなか理解が進んでいませんでした。

不登校や、ひきこもりは「なまけている、努力が足りない」と思われていました。

2000年12月、議会で取り上げてもらい、田辺市のひきこもり支援が始まりました。

「HAPPY!!」が女性ルームで週2回の集まりを続けている間に田辺市ではひきこもり支援への体制づくりが進み、担当は健康増進課となっていました。健康増進課へ行ったところ、

Ⅲ－２．支援の報告

高校の教え子で、家庭科クラブの部長だった目良保健師がおられ、「HAPPY!!」のメンバーへの対応など教えてもらうようになり、とってもうれしい再会でした。2001 年 1 月 24 日には第 1 回ひきこもり検討委員会が持たれました。和歌山県田辺市の官民一体となった支援活動が始まりました。

メンバーのお母さんたちと、目良さんを通じて健康増進課の課長と現状とこれからのことを話し合う事も始まり、支援の話がすすみました。

【居場所づくりへ】

不登校親の会や、寺沢さんにはお世話になりました。自転車で回る私を寺沢さんが見て何とかしなければと力を貸してくれました。

2002 年5月、いつでも行けて、自分たちで思うように使える「居場所」探しの結果、田辺市末広町に一軒家をお借りすることができました。「Happy!!」の印象が強いので、名前を変えたほうが良いと「ハートツリーハウス」として開所することになりました。

指導員も寺沢さんが西脇さんの奥さんをお世話してくれ、開所に関する作業を進めてくださいました。

居場所の運営も色々わからないこともありましたが、運営資金集め、利用者さんへの対応など、ハートツリーハウスにどっぷりの毎日を過ごしました。

目良保健師は、社会的ひきこもりと病気でひきこもる人と振り分けが大事だと、入所希望の人は、窓口の面接をとおして医療か居場所か振り分けてくれました。

入所委員として宮本先生にも入ってもらってハートツリーハウスを利用する人を決めていました。

和で大で不登校のキャンプで活動していたとき、子どもの接し方がよく、ハートツリーハウスに来てほしいと思っていた谷さんが、やおきからの出向で2年3ヶ月ハートツリーハウスで活動してくれました。

その頃のハートツリーハウスを振り返ってみると、利用者が多く、谷さん負担は大きかったと思います。

2004 年、県から補助金が出るようになりました。親の会も頑張って資金稼ぎをしました。寄付やバザーで資金を集めることが大変で、眠れない夜もありました。

ハートツリーハウスは、ハウスを外し、2006 年に、NPO 法人ハートツリーを設立しました。その後、2008 年には厚生労働省「若者サポートステーション事業」の受託、2014 年には「『若者が働き、生きる』地域づくり支援事業」の受託など、「居場所」づくりから、就労支援まで、生きづらさや課題を抱えた若者支援のために、切れ目のない新しい取り組みを進めています。

いろいろな方にご協力いただいて 実績もある中で活動が認められました。

スタッフもがんばりました。人がいてはじめて成果がでます。人に恵まれました。

いろいろ心残りがあり、力不足でスタッフに迷惑かけましたが、スタッフのフットワークのよさがすごく成果をあげたと思います。

田辺のサポステはひきこもり支援もしていることが全国的に高い評価を受けています。それもみなさんのおかげです。

【これからのこと】

スタッフあつての事業です。その活動の中で広まっていきました。

振り返って大事なことをいろいろ考えてみました。

人がないと動いていかない。

全国的にも生きにくさを抱えている人が多くいます。居場所がほしい。居場所は大切です。

心に残ること

スタッフの生活を保障できる給料がだせるようになったこと。居場所利用への県の補助金ができるようになりました。

ひきこもりと精神の病気の見分けは大切です。見極めが大事。病気だと医療を勧めたほうがよい。理解してくれるお医者さん、わかっているお医者さんがいてよかった。お医者さんの確保が大事になります。

研修は大事です。たえず研修を受ける必要があります。

研修を受けるため、時間 出張費の確保など補償も必要となります。

マネジメントできる力も大事です。

自死の問題は、今でも心が痛みます。

自分で命を絶たれた。オーバードース、リストカット、希死念慮が強い人。

支援している中で、そういうことにも出会うといわれたが、心が痛みます。

お母さんから手紙をもらいました。日常の活動への抗議が書かれていました。今も読み返しています。

ひきこもりの出口としての就労を急ぎすぎたこともありました。人間は、多様です。「私の仕事館」、「社会参加事業」、「やおき福祉会への労働支援委託」など、次々と働くことへと進めることが社会参加だと考えていました。「なかよし作業所」との交流の中で、「ここが僕の行きたい所」と、言った利用者さんがいたことを思い出します。人間は多様だと理解し、それを認める人でいたいです。

これからは、財政的基礎が必要となります。

2006 年 NPO 法人の認可をとっておいでよかった。

サポステは、厚生労働省で、ひきこもりは、内閣府となっています。

ひきこもり支援には、法的背景がありません。

ひきこもりは谷間で、グレーゾーンに入る。法律を作りたい。

斉藤氏が先日、NHK ラジオで、行政は縦割りでお互いガイドラインを出している、これに文科省も加わる必要があると問題点を語っていました。

内閣府は今年(2016 年)の「若者の生活に関する調査」の結果を公表しました。

それによると、15 歳～19 歳のひきこもりの人の推計は 541,000 人(2010 年の調査時より約 150,000 人減少)ひきこもりの人の 34.7%が「7 年以上」続いている人たちで、ひきこもりの長期化が進んでいる実態が問題となる数字です。(「7 年以上」と回答した割合が 2010 年の調査では 16.9%)ひきこもりが始まった時期は 20～24 歳――34.7%、15～19 歳――30.6%、14 歳以下――12.2%「ひきこもりからの脱出」について、きっかけは、「フリースクールに入学」、「同じような経験の人と会った」、「医療機関や地域の支援センターを利用」など、これらの答えから、支援や人的交流が「ひきこもりからの脱出」に必要なものとなることが伺えます。

また、親も高齢となるので、親亡き後が心配です。

ひきこもり支援には、居場所とサポステを充実させていく必要があり、法律があるということとは力になっていくと考えます。

貧困の問題もあるので、10 月から子ども食堂を始めています。

ひきこもりの支援は、中心的人がいらないから取り組めないという人がいます。和歌山県精神保健福祉センターの小野先生が和歌山はガラパゴスだと言われていました。それは、ほめことばで「ガラパゴス」＝独特な進化＝和歌山の引きこもり支援ということだそうです。

ひきこもり支援が大きな課題となって、ほぼ 15 年。その間、支援のためのガイドラインが

Ⅲ－２．支援の報告

、改訂版まで出されるようになりました。その間、支援のために多くの資金が必要となりました。居場所での資金集めの努力にも、限界があります。私たちも居場所の利用料について、検討を重ねています。「自助」の前に「公助」が必要です。「公助」がしっかりしていて「共助」となります。





Ⅳ. 参考資料



家から **こども** が
でられない
家族 でかかえこまないで
ほっこり しませんか

ほっこり会
(ひきこもり家族の会)



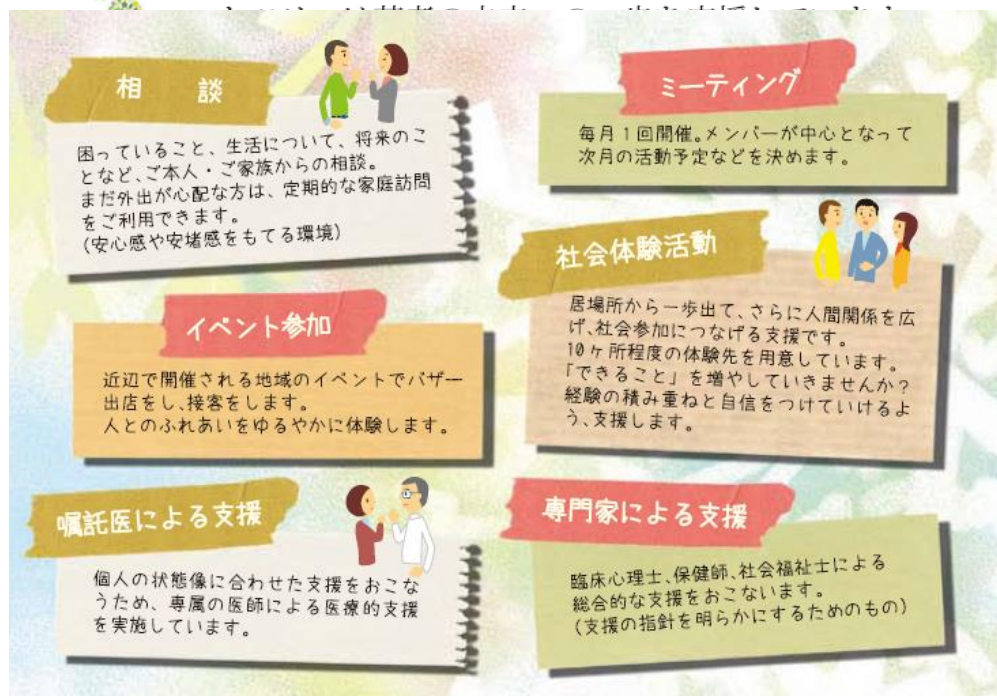
特定非営利活動法人
ハートツリー

Heart tree is a Wakayama-based non-profit organisation established in 2006



若者の未来への一歩を応援しています。

紡いでいく、
明日へ



Ⅳ-2-①. NPO法人 ハートツリー 紹介ビラ

■利用対象
仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、
6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の青少年

■対象年齢
15歳～40歳までの男女

■利用料
5,000円(1ヶ月・保険も含まれています)

■開所時間
月曜日～金曜日 9:00～18:00
※居場所の利用時間は13:00～17:00です
※土・日・祝・臨時休所の場合を除く
※見学、体験等、希望の方はスタッフまでご相談ください

居場所の役割

- ・ひきこもり青年の社会復帰を目指すための支援
- ・情報の提供、協力、つながり(ネットワーク)
- ・啓発活動



「働く」ことの
自信へと繋げる就労準備の「場」
ルルコロ菓子工房
cafe rurucoro(カフェルルコロ)
手作り雑貨 tete

からだに優しいお菓子とカフェ

rurucoro
cafe rurucoro(カフェルルコロ)
〒646-0042
和歌山県田辺市南新町 173(銀座商店街)
tel 0739-24-0066

ルルコロ菓子工房
〒646-0028
和歌山県田辺市高雄一丁目 23 番 1 号
田辺市民総合センター北館内

ONLY ONE PRODUCT
Heart tree is a Nakagawa-based non-profit organization established in 2004
http://www.heart-tree.org/

手作り雑貨のお店 tete
インターネットショップ
web <http://www.zakkaya-tete.com/>

カフェ ルルコロ

<http://rurucoro.tumblr.com/>

ホームページの QR コードは
こちら ↓





「就労」に向けた
それぞれのステップアップを応援します。

 **南紀若者サポートステーション**
(和歌山県・厚生労働省認定事業)

15歳から39歳までの若者への就労支援
「働きたいけど働く自信がない」
「働いていない期間が長いので就職できるか心配」
「どんな仕事が自分に合っているかわからない」
「対人関係が苦手な就職活動が辛い」など
職業的な自立のためのご相談を受け付けています。
相談の他にも、就職に役立つセミナーなどを
開催しております。

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目23番1号
田辺市民総合センター北館
tel 0739-25-2111 fax 0739-25-0085
mail nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp
web <http://www.nanki-saposute.jp/>

串本サテライト
〒649-4125 東牟婁郡串本町姫27
養春小学校 2階 5・6年生教室
tel 0735-67-7172 fax 0735-67-7173



ホームページのQRコードは
こちら ↓



<http://www.nanki-saposute.jp/>

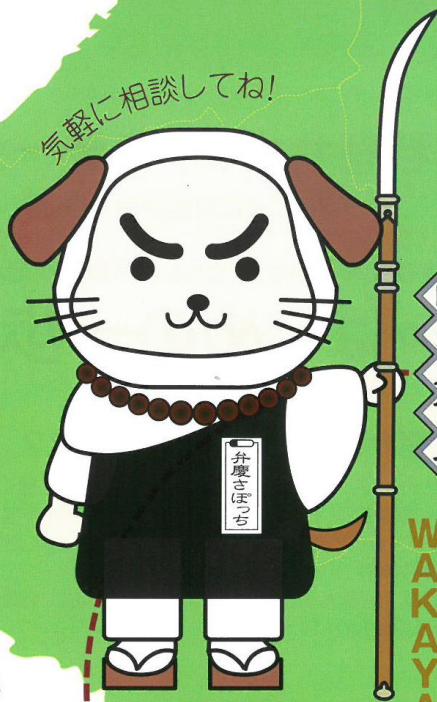


和歌山県・
厚生労働省
委託事業

南紀若者 サポートステーション

働くことに
悩みを抱えている
15歳～39歳までの
若者をサポートします。

気軽に相談してね!



●TANABE

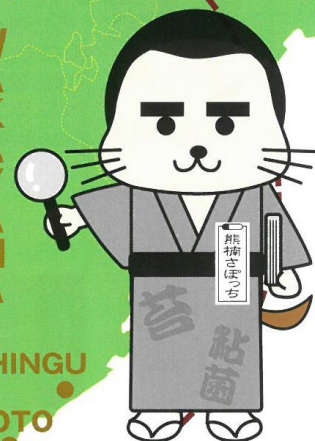
WAKAYAMA

SHINGU

KUSHIMOTO

サポートエリア

南紀一円をサポート!



サポステ 南紀若者 サポートステーション

ご利用日時:月～金曜/10:00～18:00
(土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目23番1号
田辺市民総合センター北館

TEL.0739-25-2111
FAX.0739-25-0085



携帯サイトへアクセス!→

[Eメール] nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp
[ホームページ] <http://www.nanki-saposute.jp/>
[携帯サイト] <http://www.nanki-saposute.jp/ktai/>

利用料
無料

但し、プログラム実施時に
必要に応じ実費を頂きます。

サポステ 串本サテライト

ご利用日時:火・水曜/13:00～16:00
木・金曜/11:00～16:00

〒649-4125 東牟婁郡串本町姫27 養春小学校 2階 5・6年生教室
TEL.0735-67-7172 FAX.0735-67-7173

サポステ 新宮サテライト

ご利用日時:水・金曜/11:00～16:00

〒647-0073 和歌山県新宮市木ノ川169-3
TEL.0735-31-7740 FAX.0735-31-7730
[Eメール] shingu@nanki-saposute.jp



南紀若者サポートステーションは

「働くことに自信が持てない」
 「対人関係が苦手安定した社会生活を送りにくい」
 「何かを始めたいけど、どうしたら良いか悩んでいる」

そんなあなたの **はじめての一步** を応援します！

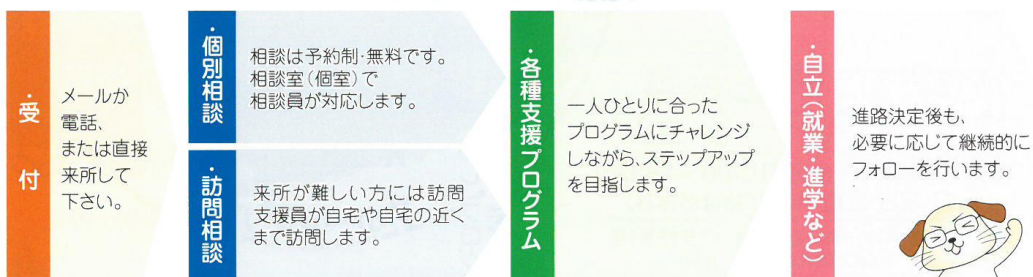


地域若者サポートステーションとは？

地域若者サポートステーション（愛称:「サポステ」）では、働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者に対し、キャリアコンサルタントなどによる専門的な相談、コミュニケーション訓練などによるステップアップ、協力企業への就労体験などにより、就労に向けた支援を行っています。
 サポステは、厚生労働省が委託した団体が実施しており、全国160か所（和歌山県内は3か所）に設置されています。

愛称
サポステ

サポートの流れ



個別相談

- ・キャリアカウンセラーによる **働くことに関する相談**
- ・臨床心理士による **こころの相談**
- ・訪問支援員による **訪問相談**

各種支援プログラム

- ・職業体験・見学
- ・ビジネスマナー講座
- ・パソコン講座・個別指導
- ・就活セミナー
- ・コミュニケーション講座
- ・スキルアップ講座
- ・保護者セミナー

出張相談会

串本町・新宮市で出張相談会を行っています。
 詳しくはお問い合わせ下さい。



サポステの安心ネットワーク

南紀若者サポートステーションは、各関係支援機関と緊密なネットワークを構築していますので、安心して継続的・発展的なサポートを受けることができます。

さあ！まずは相談してみませんか！
 ご家族からのご相談も、もちろんお受け致します。

NPO 法人 かたつむりの会

法人本部
住 所 〒646-0036
和歌山県 田辺市 上屋敷 1-7-28
電 話 0739-25-3888 FAX0739-33-7210
メール npo.katatsumuri@pearl.ne.jp



町家カフェ 上屋敷二丁目

(障害者就労継続支援 A 型事業所)



就労の場所です。
週20時間以上働く人は
雇用保険にも加入しています。



営業時間 9:00 ~ 14:30

(月曜定休日)

住 所 〒646-0036

和歌山県田辺市上屋敷 2-6-31

電 話 0739-20-5595

メール npo.katatsumuri@pearl.ne.jp



営業時間 9:00 ~ 18:00

(火曜定休日)

住 所 〒646-0036

和歌山県田辺市上屋敷 2-6-7

電話 / FAX 0739-34-2146

メール rara-locale@crocus.ocn.ne.jp



レトロな元公民館を
改装して生まれた
パスタとパンの
レストランです。



2階はライブや展示会
などのイベント会場
として利用できます。

うらロカレ



(障害者就労継続支援 A 型事業所)



ワークサポート・いこう

(障害者就労継続支援 B 型事業所)

より広い層の利用者さんに通っていただけるよう
施設等を整備し、平成28年11月に移転しました。
働くことの土台作りを目指すとともに
少しずつ工賃を得ていきます。



開所時間 月～金曜 9:30 ~ 16:00

(イベントの都合で変更する場合があります)

住 所 〒646-0036

和歌山県田辺市上屋敷 1-7-28

電 話 0739-25-3888

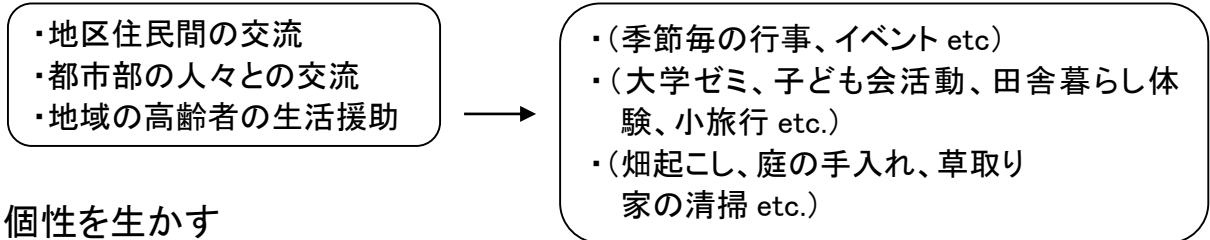
FAX 0739-33-7210

メール npo.katatsumuri@pearl.ne.jp

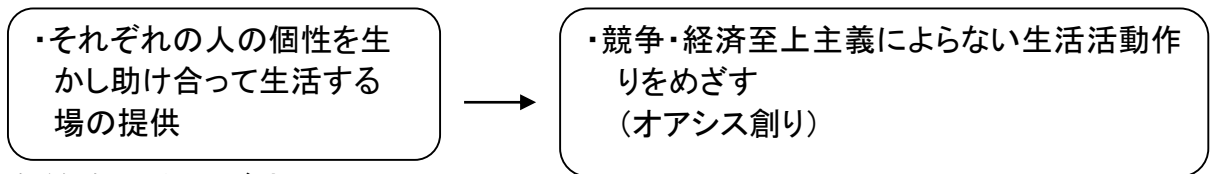
私共 NPO 法人共生舎は社会福祉法の制度に依らずそれぞれの立場の者がその個性を認め生かし、お互いに助け合って生活していくという理念の下に活動しております。

主な活動

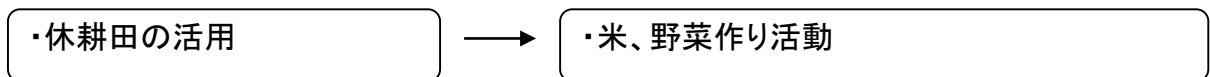
・助け合い



・個性を生かす



・自給自足をめざす



活動の場

・山あい拠点

田辺市(旧大塔村)五味 240-10 共生舎 古民家 定員 10 名

ただいま活動に共鳴していただける方を求めています

1. 正会員になる。(年会費 5,000 円)
2. 共生舎のPRをしていただける方
3. 上記行事などへのボランティアに参加していただける方
4. 財政的援助をしてくださる方(金額は問わず)

連絡先 NPO 法人共生舎 田辺市五味 240-10
(Tel) 0739-62-0400

(設置)

第1条 思春期・青年期にある者(以下「青少年」という。)にみられる「ひきこもり」の問題について、関係機関が相互に連携して一体となって取り組むことを目的として、田辺市「ひきこもり」検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事項について検討等を行う。

- (1) 「ひきこもり」の状態にある青少年についての支援活動に関すること。
- (2) 前号に規定する青少年に関する問題点等について検討すること。
- (3) 「ひきこもり」の予防活動に関すること。
- (4) 「ひきこもり」に関する研修や研究会に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、委員会の目的達成のために必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員42名以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験者、民間支援団体、医療・保健・福祉・教育関係機関、市職員等のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。
- 3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする

(委員会)

第4条 委員会に委員長及び副委員長2名を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員会の委員の代表による小委員会を設置し、定期的に会議を開き、その結果は委員会へ報告する。
- 3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の意見又は説明を聴くため、その者に委員会への出席又は文書の提出を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、保健福祉部健康増進課に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 25 年4月1日から施行する。

Ⅲ－５． 田辺市ひきこもり検討委員会 委員構成

		選 出 区 分	備 考 (選 出 団 体 ・ 役 職 名)
委 員 長	1	福祉関係団体・機関	社会福祉法人やおき福祉会
副 委 員 長	2	民間支援団体	NPO法人ハートツリー ひきこもり者社会参加支援センター ひなたの森
副 委 員 長	3	医療関係者・団体・機関	臨床心理士会(臨床心理士)
小 委 員	4	学識経験者	
小 委 員	5	民間支援団体	NPO法人ハートツリー 若者サポートステーション With You南紀
小 委 員	6	福祉関係団体・機関	社会福祉法人ふたば福祉会
小 委 員	7	福祉関係団体・機関	田辺市社会福祉協議会
小 委 員	8	保健機関	田辺保健所(精神保健福祉相談員)
小 委 員	9	田辺市役所	教育委員会学校教育課
小 委 員	10	田辺市役所	教育委員会生涯学習課
小 委 員	11	田辺市役所	やすらぎ対策課(障害福祉室)
小 委 員	12	田辺市役所	健康増進課
	13	学識経験者	徳島文理大学人間生活学部心理学科講師
	14	民間支援団体	共生舎
	15	青年会議所	白浜・田辺青年会議所
	16	民間支援団体	NPO法人 かたつむりの会
	17	福祉関係団体・機関	紀南児童相談所
	18	医療関係者・団体・機関	精神科医師
	19	医療関係者・団体・機関	紀南こころの医療センター(精神科医師)
	20	教育関係機関	田辺市教育研究所
	21	教育関係機関	田辺市養護教諭研究会
	22	教育関係機関	和歌山県教育センター学びの丘
	23	教育関係機関	紀南六高校代表
	24	教育関係機関	西牟婁養護教諭研究協議会高校ブロック代表
	25	教育関係機関	南紀高校
	26	学識経験者	龍神地区
	27	学識経験者	大塔地区
	28	学識経験者	中辺路地区
	29	学識経験者	本宮地区
	30	学識経験者	主任児童委員
	31	田辺市役所	保健福祉部長
	32	田辺市役所	子育て推進課
	33	田辺市役所	商工振興課